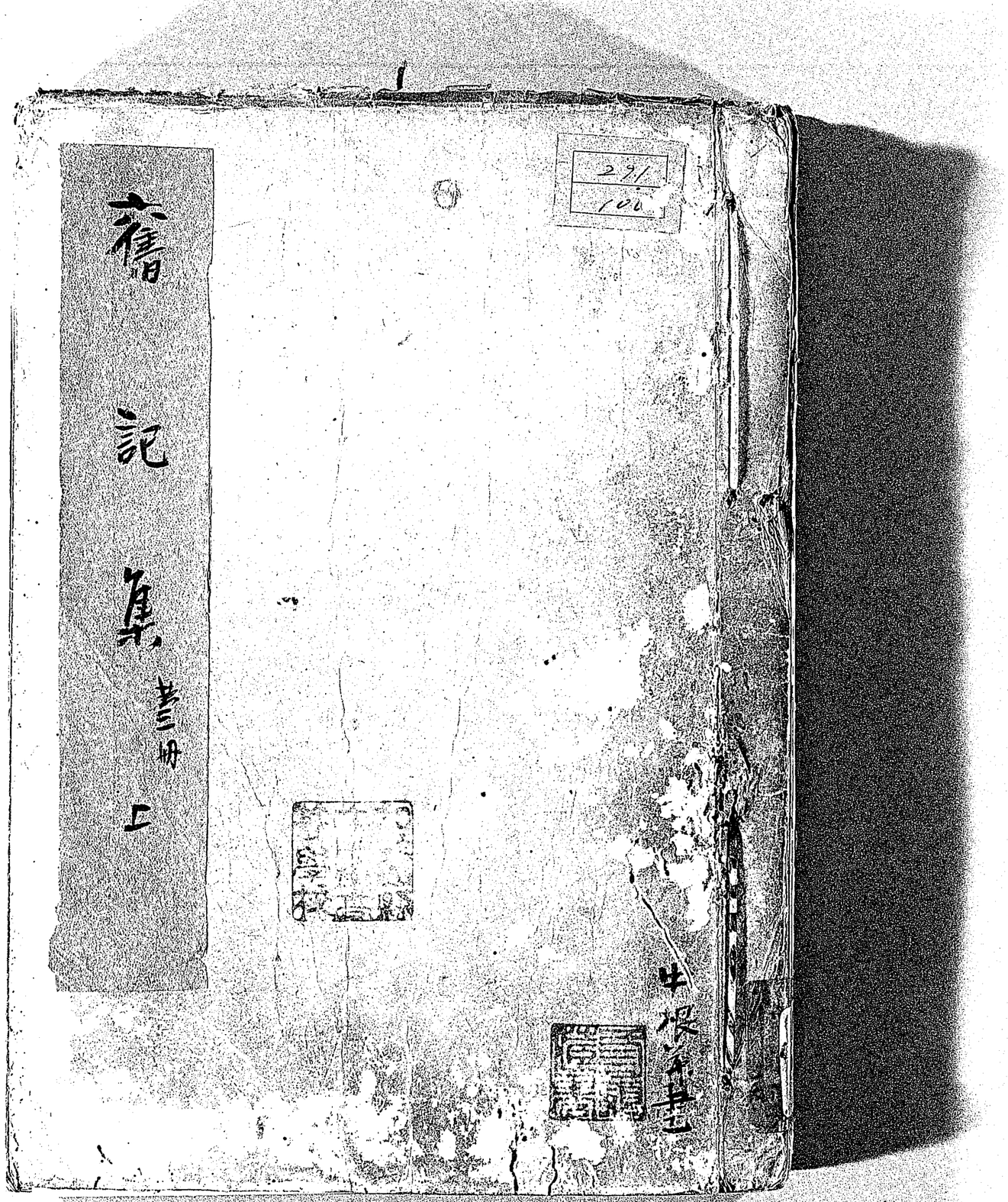


県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

中根文庫

目録

一 手紙 都印影 都智山、都左ノ国主
一 付領分村ニ方角宗教違法
一 板本家台陸山花岳坊 新宮権現ノ祝、直接本家ノ
一 名川法小宗由緒書 旧藩時名川実ノ菩上也
一 神台再造及妙心寺由来書 行尊時代ノ旧地
一 新古出願書 藩ノ禁制 添簡書
一 出家礼状住職目録 全
一 並ニ状 御領主様帰国 藩ノ与達

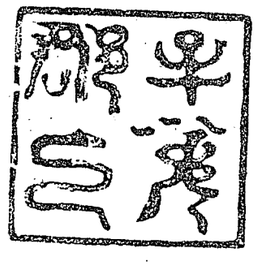
県立串本古座高校所蔵

中根文庫 資料番号 04032

古座高校圖書館
28.10.21
藏書NO. 403

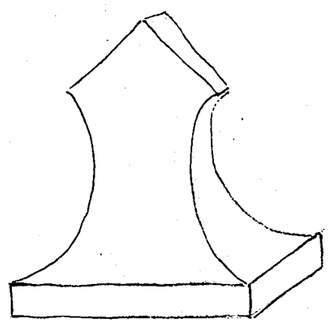
県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

国玉 官幣中社 都智神社



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

古老ノ傳ニ曰　白河上皇（一〇九）
ノ御宇ノ時御弓自ラ
五尺餘ノ上ニ當テ
供奉セル一百余那名ニ住セシ者ニ
那名ニ云ヒ洲ノタルナリト



古キ寸法ノ古キ寸法ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

寛永十九年頃の調

（一六四二年）

御領分村々方角家数道法

法用部屋

参考一九二頁寛
正徳元年二月新宮藩ニ再度ノ調査アリタリ
其之ニ而山尾文七手ニ書上帳ヲ在々名寄書物ヲ
添テ山ノ和ヲ廿二次ノ調之ニ（色川文書）

紀州牟婁郡之内新宮領之道筋

申之寅、南ヘ本宮

一 五里半指五町三指間
同海上同断之形

一 南小九里八町

一 東西七里指内
同川上同断之形

一 南北六里半指五町三指余
同海上同断之形

一 野士村 居已向 後ハ山 前ハ川

家数百四軒 寺 小家共

新宮ヨリ本宮馬ニ而
新宮ヨリ

新宮ヨリ本宮ヘ
小山堺一老谷不動峠ヨリ

新宮ヨリ西ノ方本宮堺
牛峠ヨリ

新宮南ノ方下田原堺
田原坂ヨリ峠ヨリ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04032

北左於ゟ
木ノ本堺目ゟ
濱ゟ
有一ヲ村堺目ゟ
神ノ上堺ゟ
赤会村堺目ゟ
佐治村堺目ゟ

野土ミ内ノ方

一書ニ二十二丁ニ有ゟ

一　大一ヲ権現　居ル向ヒ北ノ方ニ三拾弐町山奥ニ有
田村ノ将軍日野氏縁起ニ曰有ル社三間四面拝宮ニ造営ス則チ社檀ノ
下ノ水ヨリ出ル小川ノ社ノ北ヲ流ル拝ヒ村ニ流ル小川ハ社ヨリ澗ヲ

於九町　乃至
於八町
汕於町　乃至
汕里五町　山ヲ
汕里　山ヲ
汕里　山ヲ

ミ向ヒ流ル宮谷ノ社ヨリ七拾弐間隔テ居ル宮ノ宮寺五間六間ノ寺
ノ社領ヲ

一　ヲ一ヲ村　居ル向ヒ　渡ル山
岩ル海
汕五町ヲ

木ノ本堺目ゟ
古保村ノ堺目ゟ
赤会村山堺ゟ
金山村ノ堺目ゟ
串原村堺ゟ
海ノ端ゟ

汕於汕町五拾弐　仕事ノ為
三拾八町五拾弐　日乃為
伯耆ノ国
寺里半
汕於五町　山ヲ為
於八町五拾弐
寺壁丁五拾弐

ヲ二ヲ内ノ方

一　壱四大明神二社　南向ヒ社九尺ノ六尺

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

社ノ内東西三拾弐間南北弐拾間ニ而社地
瑞籬面七間、北面七間、拝殿拾間ニ弐間
拝殿木の拝
一大明神　住持御祈願所ニ而御座候
右ハ社領五石ニ而御座候
一大服若宮　南向　宮守ハ神主ニ而御座候
岩ニ寄ル山ニ而御座候
と、ノ伸人ニ而ハ不在候ニ付
ろ卯石ニ寄ル海辺ニ而御座候
新峯と申ス岩ニ而御座候
大服若ノ祭りハ二月二日ニ而御座候
と作リ祭ルハ田ノ人今ハ甚ダ衰ヘ
一長生山海楽寺　南向　真言宗ニ而六百四拾弐石
一大服若ノ祭りハ二月二日ニ而御座候
大服若ノ祭りハ九月廿四日

掛ヶ三木新八宗ニ叶ヒ山ヽ若ノ
占七十余年ニ休閑又年数ヶ
寺

一 安存守屋付、梅ノ古古所南ヘ
指五百坪ノ畑ニ百石植仕高ヶ
先手石田治部少輔乱ノ節人仕
以前ニ高ニ付安存守屋子息有
ル

一 薬師東谷寺 東向北寺指行四間七り六百
本堂ハ古ヘ人三寸ノ木仏ニ行基ノ作ニ由
家数拾七軒 寺
小家共

一 串屋村 繁昌

安存守屋付、梅ノ古古所南ヘ
指五百坪ノ畑ニ百石植仕高ヶ
先手石田治部少輔乱ノ節人仕
以前ニ高ニ付安存守屋子息有
ル

薬師東谷寺 東向北寺指行四間七り六百

安存守屋付、梅ノ古古所南ヘ指五百坪ノ畑ニ百石植仕高ヶ先手石田治部少輔乱ノ節人仕以前ニ高ニ付安存守屋子息有ル

薬師東谷寺 東向北寺指行四間七り六百

一 此景ト岩山石の大ナル三拾弐間四方位於より乾(イヌイ)の方ヘ十五町餘にあり

一 瀧 高サ三拾尋余より下の方拾四町山奥にあり岩ヘ水ガレ大旱(ヒデリ)ニも絶ル事なし瀧の名ハ観音瀧ト申伝ル 真言宗

興正寺居寺

一 赤原村 艮向 ほゝ峯山 前ハ田畑

此立石より

市木村ヲ指ス町数三十五間

東北指ス町数十間

一 市木村 巳午向 後ハ萱山 前ハ松原

此立石より

赤原村ヲ指ス町数十五町餘

家数百弐拾五軒 寺弐ヶ所

此内

一 古土居 南向 東西ハ十三間南北拾九間塀ヲ廻ス 石垣ニ而築有 高サ壱丈程

馬ニ乗かけ二十騎有ヨリ出陣ス 梅ノ木堀ヲ越ス時ハ此所ニ而人数ヲ揃ル

ヤウニ至ル 今新有ヲ苅方手負死骸多ク有由ニ而古土居ト人宝寺

との間数町ハ於田畑ニ其時の死仕ル者の子孫ヨリ今ニ至ル迄年ニ九十二

三ヶ年ニ一度宛由ヲ伺ヒ

一 石田和村 艮向 後ハ峯山 前ハ海

此立石より

家数百弐拾軒 寺弐ヶ所

市木堀ヲ指ス町数五十間

梅ノ木堀ヲ越ス時ハ於田畑

一 井田村 東向 山ノ東ハ海 前ハ山

家数弐十四軒 寺弐ヶ所

北左衛門より
阿田和界占拉口ヶ峯八百五拾間
口の不洞峯六間
鵜原界占拉六町四十五百五拾間
神内界占八町三十百山百七間
打作界占拉八町五拉百山百
海端迄三里廿百
一鵜原村 南向 前ハ川 東ハ海
北左衛門より
牛田村の界目鮑ヶ峯占斗拉七町
味川村の界目占
宗旨一百三軒 寺小家共

北ヶ内堺目占
川口迄
拉町上百間
五町斗拉百
拉川口ヶ新宮ヶ船出入ヶ津ヶ
一味川村 南向 前ハ大川 後ハ峯山
北左衛門ヶ中より
宗旨二十五軒 寺小家共
鵜原村ヶ境目占
六町百間
北ヶ内境目占
拉二町百間
新田村ヶ境目占
六町斗拉間端百
一新宮ヶ渡船川の廣サ斗町七百五十間
内斗拉文八新宮領主ヶ渡ル時ハ船五文ヶ
一鰐田村 前ハ川 向東ハ峯 牛峯ヶ大川ヶ境ハ山
宗旨五拉七軒 寺小家共

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

一 新宮川之端占　三町八百五十六間

寺岩村之堺目占　八町二十八百五十六間

一 牛鼻宮居極之内七百之社檀六畝百二百五十寸向之一番三百二十寸本
号ハ宮造神大日如来内社隣ニ宮守之寺有宮之前ハ川境ニ山寺ハ七
於九百拾百八百五十之位深山神木

一 非挨非於九年以前之寅年小山ニ一橋共牛鼻占拝宮ハ大川端占参ハ共新宮
人数出合造神ハ

大川之海船牛鼻ニあり於海ニ小山ニ而ハ新宮ニ往行留守ハ鰐田村之者

一 弁慶うつぶせ柱とハ傳梅之本有り廻り九尋寸ハ於三百鰐田村之内ニあり

一 鰐田より峠之方ニてうしぐちとハ滅有り高六百滅坪ハ法浄ハ渕とハ
云ニ尚口方ハ居ハ鰐田ハ寺所斗於百谷奥

一 弁慶之大ま石とハ傳廻り五尋湯の谷とハ不ニあり湯ハ湧ク共何の害生ニ立
ふハ鰐田ハ此所ニ於尚方り向谷脇

一 矢ニ合ハ滅坪ニ五尚滅坪ニ五百四方鰐田ハ三町五於百谷奥向谷脇

一 布ニ巻きの滅ハ三於尚鰐田村ハ於斗町三於尚谷奥右何とも滅ハ鰐田
村ニ切原川と居合ハ

一 高尾村　前ハ切原川
後ハ山

家数七於ハ寺
小家共

芝生原の中より

鰐田村ニ境目占　於斗町三於ニ五百乃脇

大里村ニ境目占　ニ町口於ニ五百乃脇

一 大里村　前ハ切原川
後ハ山

家数百四於ニ村寺
小家共

元本ニ此ニ九年以前ニ寅ノ年ハ慶長十九寅年也方ニ此帳面ハ寛永九年ニ当ル
ト知ニ来ル

高岳村と境目と　松吹三松立百乃ゝ
牛田村と境目と　口吹立百乃ゝ

一古山峠の初乃方十丁計松百上ゝ赤松一里塚
小山ゝと一松ゝさ」と松立札ハ其後安永五年のとき新宮等寺の時ゟ
少下乃峠内板ニ彫付ゟ有ゟ夫ゟ能後ゝと知ゟ

一峠ゟ南てゞことゟ山乃ゟそこ口と大里ゟ志ゟ計吹ゟ
ゟ志大里ゟ志ゟ計吹ゟ

旧吉谷の掌と大里ゟ志ゟ松ゟ
旧名志ゝ口と大里ゟ志ゟ計松立吹ゟ
旧平田庄と大里ゟ志ゟ計吹ゟ

旧仲庵と計里参ゟ計松仲の庵乃ゟ人ゟ初志ゟ兵村ゟ折ゟ松くゟ
志ゟ

一井内村　　家数の内ゟ
松志ゟの内ゟ
平庄井村と境目と　松志吹立百乃ゝ
大里村と境目と　三吹立ゟ乃家
一平庄井村　　家数ゟ
松志ゟの内ゟ
井内村境目と　三吹乃ゝ家
松松原村と境目と　四吹ニ松百乃家
一坂松原村

旧仲庵と計里参ゟ計松仲の庵乃ゟ人ゟ初志ゟ兵村ゟ折ゟ松くゟ
志ゟ

一井内村　　家数の内ゟ
松志ゟの内ゟ
平庄井村と境目と　松志吹立百乃ゝ
大里村と境目と　三吹立ゟ乃家
一平庄井村　　家数ゟ
松志ゟの内ゟ
井内村境目と　三吹乃ゝ家
松松原村と境目と　四吹ニ松百乃家
一坂松原村

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

北吉野の中より
平左衛門村へ境目迄　四町弐拾間
切原村へ境目迄　四町五拾間
一引作村未向山の腰へ掛る村之
北吉野の中より
石田原村境目迄　拾九町弐拾間
中吉村へ境目迄　壱町拾九間
一中吉村南向　掛ケ川　川向ま山　及ケ山
北吉野の中より
引作村へ境目迄　弐町拾五間
石田原村へ境目迄　弐町拾五間
家数拾八軒寺小家共
一石の原村へ境目迄　拾壱町弐拾間
水上ハ屋ケ志川瀬村より出石田原村へ流れ中ゟ
一西ノ原村　東向　小ハ川　石ケ志ノ流　川上ハ河瀬
北吉野ゟ中より
家数七軒寺小家共
中吉村境迄　五町弐拾壱間
上野村境迄　四町九百八拾間
板本村へ境迄　三町弐百川端山迄
一板本村　北向　三方ハ山　南ニハ小川流西ノ方ヘ出
屋敷ゟ左同
北村へ中ゟ
家数三拾六軒寺小家共
西ノ原村へ境迄　三拾六町三拾間山迄
神ノ木村境迄　八町三拾六間山迄皆坂

上野村ニ境ス　　四町三拾六間

小川の水上野中の奥北ニ於テ八町三拾六間あり

一上野村南向　西ニ六川　十方ニ山　　家数五拾六軒　寺小家共

此左所ニ中ヨリ

板本村ニ境ス　　五町ニ於テ八百山乃

一西ノ原村ニ境ス　　拾五町ニ於テ八百山乃

西ニ六川限リ上川筋の奥ヨリ流ル中ニ村ニ出ヅル

一堺の辺ヨリ小南ニ四拾六間西ニ三拾六百の内ニ畑有リ渕ヲ斗間中

上ヨリ下ル斗間又ニ三間ヨリ石垣四方ニ五ツ寺ヲ間半又七間の下ヨリ

中ハ天次中不同此堺ヨリ六町目ニ当ル傳兵衛ヨリ三年先ヲ二年堺

ヲ以テ九ツ、家ハ皆田中長部屋ニ居ル其ほか堂ハ家ニ守屋ニ有ニ

仕拾ニ年以前ニ相果、甚子尾ニ有次第ニ当ヲ人今ニ堂ニ

屋ニ住在ス

一公賛珠山長徳寺　禅　東向北ニ有ニ六拾間ニ西ニ三拾三百の内ニ寺有ニ

寺ハ昔ハ悟ニ隠キ有ヨリ付没庵有ノ内ニ此ハ庵ニ有ヨリ――二十目

昔雲栖ニ三代竹堂和尚四代ヲ久岩和尚五代ヲ玉和尚没庵有ヨリ先ハ

不知――天庵和尚ノ住キ有リ寺ヲ傳ヲ就文寺ノ兵次ノ内――

一栗栖村南向　西ニ六川ニ有ノ川ヲ石渡ヨリ北ヲ西ノ川ヲ川ノ向ヒヨリ北ヲ

家数三十ニ軒　寺小家共

上野村ニ境ス　　六町ニ於テ八拾百乃

片川村ニ境ス　　拾三町ニ於テ八百乃

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

川渕村境ヒ　　三町五拾斗間有之候
西の方北川上ニ栗須村の内生所のそひまて凡傳の峯谷まて拾町斗間
あり

一河瀬村南向　東ハ川
　　此生所の中より　　家数斗拾五軒

雲須村境ヒ　　沙拾三町斗間有之候
　　沙拾五町斗間有之候
北ハ山境ヒ

東ハ川限り谷上河瀬より水方大工の峠の谷ヒ拾七町四拾間栗須雲須中
ニて流有之候

一竹原村　東向　　高ハ小松川東ヒ西ハ流
　　但ハ山川境の村ニ
　　此生所の中より　　家数七拾五軒

神上村境ヒ　　沙拾三町斗間有之候
栗須生並御の内幸原村一所谷ヒ谷間通り不動峠ヒ中境目まて
三拾五町斗間但小山の方通り
大沼村の境ヒ　　沙拾斗町三拾斗間有之
　　西ハ山続ニ内　　栗須西川境ヒ栗の木井谷ヒ壱里山ヒ

一大沼村　南向　　高ハ北山川流
　　但ハ山
　　生立所の中より　　家数五拾軒　寺小家共

平谷村境ヒ　　拾五町五拾三間小山ヒ
七井村境ヒ　　拾壱町拾間山ヒ
竹原村境ヒ　　拾六町斗於七間小山ヒ
下屋野村境ヒ　　七町二拾八間ヒ

一津野組屋敷より門の鮎沢兵庫一楼村より大沼村へ境ニ至る
川の端生場 大沼村ニ五町於岡あり
西山組ニ内
一下屋井村 南向 前ハ山川東ヨリ西へ流
ほん山
生茶の中より
大沼村境ニ
七町於七岡ニ有之
家数六於斗軒寺
小茶共
和外四村境ニ有松屋ニ
斗里
小去村境ニ有
六町三於七岡ニ有之
西山組ニ内
一小去村 南向 四方山
家数於七軒寺
茶の中より
下屋軒村境ニ
三町ニ於七岡ニ有之
平谷村境ニ
於七町ニ於九岡ニ有之

小松村境ニ
於ニ町
西山組ニ内
一小松村 南向 前ハ北山川西へ流
ほん山
於七木の中より
小去村境ニ
於三町ニ於七岡ニ有之
平谷村境ニ
八町於岡ニ有之
一玉置口村 南向 前ハ小川ホル川
ほん山
於七ヶの中より
家数三於軒寺
小茶共
和州五津川ニ内竹ノ戸村の境ニ有
より於六町斗於ニ岡ニ於たう北ニ有之
より田ニ有ニ川の上八町五反
水津ニ村の境ニ
五町於三岡ニ有之

入庵ヶ内
一木津呂村東向　苔ハ北山川南ノ小流ノ傍ノ山
　　此左所ノ中ヨリ
玉置口村ノ堺ヨリ　三ケ所ヨリ向ノ方
鳴津村ノ堺ヨリ　三ケ所ヨリ向ノ方
　　家相ヨロシケレ時ハ家共
入庵ヶ内
一鳴津村東向
前ヲ小山川ト云ヘル流ル水ヲヘダテ小谷ニアリ此谷ノ方ヨリ別レ出ル流左所ノ中ヨリ
　　此左ノ中ヨリ
木津呂村堺ヨリ　九ケ所八向ノ方
板屋村堺ヨリ　七ケ所ノ方川流ル
湯ノ口村堺ヨリ　板ヨリ此所ヨリ向ノ方

入庵ヶ内
一小栗須村東向　苔ハ小川ト云ヘル村ノ北ノ流レ鳴津ヨリ小山川ト云ヘル
　　此左ノ中ヨリ
矢ノ川村ヨリ堺ヨリ　三ケ所ヨリ三ケ所ノ方
大栗須村ヨリ堺ヨリ　四ケ所ヨリ四ケ所ノ方
板屋村ヨリ堺ヨリ　四ケ所ヨリ三ケ所ノ方

一昔鉈胎指ヲヨリ入庵ヲ仏ヲヨリ仏ヲ銅治屋敷神荒隈ト申寺ヲヨリ古寺小栗須村ヲヨリ川向西ヲヨリ屋敷ノ位ヨリ屋敷石垣ノ寸ヨリ八尺程ノ山小高ヨリ五百石東ヨリ板屋ヨリ屋敷ノ方ヨリ此ノ方ヨリ野ヲ渡リ寸ヨリ尺五寸中ヨリ四尺四方ヨリ石ヲヨリ掘リ井ノ如ク四方上ノ山ヨリ大杉ヨリ根ノ如ク出ル中ヨリ同柳ヲ以柳リ徐ヨリ栄木ヨリ此ノ由ヲ仰ヲヨリ大木ヨリ今ヨリ只今ヨリ切枝ヨリ小木ヨリ六本ヲヨリ寺屋敷ヨリ苔ヨリ荒ヲヨリ此ノ方ヨリ本仏釜ヨリ上ヨリ云ヘル方ヨリ

一八幡宮東ヨリ内ヨリ南ヘヨリ此ヨリ九百一西東ヘヨリ此ヨリ百瑞ノ庭ノ内小栗ヘヨリ八百一西東ヘヨリ三百ヨリ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

社西向十間、北南五寺西東、七尺石ともに五寺角ゝ階五つ有り云伝説を
年月ごろまるや、入麻疹中の宮

一、光林牧山慈雲寺 禅宗 巻七南、三拾弐間、西東、三拾弐間、西東、寺丑寅向五百四方境ハ
山前ハ石垣ごく年上ゟ十寸ゟ八尺の石垣ごく本堂ゟ仏殿ゟ庫裏ゟ
入麻疹
一、湯ノ口村 西向 前ハ小山川 ゟ南へ 流ル小山
家数ニ拾七軒 寺 ゟ家共
此高の中ゟ

大河内村境ゟ 拾町拾五百乃至
東ハ十津川竹ノ戸村の境大横の上ゟ峯ゟ峯ゟ境ゟ
同川向ゟ境ゟ 拾五町七百乃至
一、花井 九重村 西向 前ハ小山川 流ル小山
家数八拾九軒 寺 ゟ家共
此高の中ゟ

下木村ゟ境ゟ 七町三拾五百乃至
東ハ十津川ゟ向竹ノ戸村の境大横の上ゟ峯ゟ境ゟ
同川向ゟ境ゟ 拾五町七百乃至
東ハ十津川ゟ向玉置川村ゟ境 依而ゟ境ゟ 拾町拾五百乃至
一、下木村 東向 前ハ北山川ゟ東ゟ流ル川ゟ向ハ七色ゟ宮ゟ宮川会村ゟ境ゟ峯ゟ小山
家数三拾六軒 寺 ゟ家共
此高の中ゟ

花井村の境ゟ 六町乃至
河合村の境ゟ 三町乃至
ゟ條在村の境ゟうつきう中休場ゟ三拾三町乃至
一、梅枝村 南向 中ゟ大川ゟ 新宮湊ゟ流ル
家数三拾八軒 寺 ゟ家共
此高ハ

新宮境内
おとものつ海ヲ挟ム
津屋境ヨリ
一津屋村 東向 ほこ 茶ハ大川
竹左ヱ門
柿枝境ヨ
赤気境ヨ
吉田境ヨ
一古墳ヲ除ニ在ル小南三柱立習一西来ル於テ本地ヨリ内廻リニ柿有リ先年
私ニモ ちこゝ在ル時新宮境内安養寺ヨリ付来ノ神ヲ移座ヤ
ル処ニ安養寺屋内ニ永田五反百枝ノ者南人大将ヨリ指来ル所仕訳味方ニ
於テ人ヲ討死仕ル 墓上ヨリ六柱ニ三年以前ヨリ新ニ安養寺屋ヨリ付来ル

指吉町口於テ左ノ
於テ三於テ左ノ
家数九於テ新寺共
寺里吉町左ノ
寺里吉町左ノ
立町三於テ左ノ

一 壱ヶ所ヨリ南ヨリ
お 古墳ヲ除ニ在ル昔ノ権現様ヲ奉リ
ヨリ石ヲ以テ今ノ
一 壱ヶ所ヨリ南ヨリ
傳ヲ以テ由其時王陰様ヨリ
ヨリ勅使ヲ以テ
ノ
一 左ニ
一 吉田村小向四方山
村吉ヨリ
津屋境ヨ

一 壱ヶ所ヨリ南ヨリ 古墳ヲ除ニ在ル川端ニ常ニ森ノ木ヲ以テ
ヨリ石ヲ以テ今ノ
一 壱ヶ所ヨリ南ヨリ 山ハ在ル上峠ヨリ
傳ヲ以テ 由其時王陰様ヨリ付来ノ
ヨリ勅使ヲ以テ 度ノ勅使ヲ以テ
ノ
一 左ニ 家数三於テ新寺共
一 吉田村小向四方山
村吉ヨリ
津屋境ヨ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

一 秋葉村南向 後ノ山 前ノ川
牛五不ノ
津屋塔ヒ
能城日吉ノ摂ノ大川ヨリ
楊枝村塔ヒ
一 此不ヨリ法ホケ神ヒ社ヲ合ノ已午向拝行七五ケ寸ヨリ
内十間ヘ指百半西ニ八百神ニ合ノ鐘ツキ堂ノ
一 社檀ノ旧跡
一 法名住一部納紙金泥ニ住五巻
一 神社ノ古ビザニ四寸廻リ程ヨリ
一 手箱ニ入レ古ビタル文書ノ外ニ黒漆ニ塗リタル蓋内ニ鏡二面有リ
一 此内ニハ法ホケ一部ニ巻ノ外ニ珠数一連白檀七本ヨリ
一 白木ノ位牌一特股ノ矢立手
古言。
う波ヨリ玉ヲ入ヌル道ヲマケ
ヲ佛ヒミ申ヨリ
故号ハ後白川ノ院 能登守教経ノ法事
修行ヲ為ル
一 能登村西向 東ハ大川 後ハ山
牛五不ヨリ
田長ノ坊ヨリ
二十五町五十間
家数五軒 寺一軒

日吉ノ境ヨリ
一日吉村ヘ向ヒ山
　　北ヘ六丁
舳地境ヨリ
津留境ヨリ
椋井境ヨリ
　　東ノ南小口川ヘ流入
一日吉村ヨリ向ヒ長サ五尺余ノ石橋有之候所ヨリ西十余間ト申ス人ノ石橋ヲ
　田武間ヨリ北ヘ一条ノ小道有之候ヲ東境ト定メ是ヨリ北ヘ一丁ノ所ヨリ
　家数ト申ス者ハ数子孫西東ニ住ト申ス今ハ絶ヘ
一楊村村南向　東ノ川
　　北ヘ山
　　口ノ丁ニ接ヒ有之候
　　家数八軒寺軒　寺家共
　　三町ロニ接ヒ有之候
　　壱里三町ニ社有之候
　　椋井境ヨリ
　　九町ロ有之候
　　七町ニ接ヒ有之候
　　接ロ町ニ社有之候
　　寺壱ヶ所有之候
　　家数九軒寺軒　寺家共
一椋井村東向　東ヘ小口川
　　北ヘ峯山
　　北東ノ中ヨリ
　　壱丁ニ接ヒ有之候
　　家数弐軒寺軒　寺家共
一隣山浄蔵寺ヨリ古ヘ之古堂ハ本堂ト観音堂ト某ノ堂ト
　傳ヘ文安元年三月ノ開山寺会住持大和尚寺村中之者ヲ再興仕由棟札ニ有之候
　　家数弐軒寺軒　寺家共
　　接ロ町ニ社有之候
　　壱丁ニ接ヒ有之候
　　家数九軒寺軒　寺家共
一椋井村西向　東ヘ小口川
　　北ヘ山

地東より
指牛境占
小口東村と境占
一小口東村 西向 茶ノ川ほか山
生立木より
赤木領と堺占
大山と堺占
一大山村 東向 生木山つかさもらえより
生木より
小口東おと堺占
糸川領と堺占

於此所於當石神
六所三社九間石祠
家數拾八軒 寺壱軒
於此所於山於立木石神
立望於此所立木於石神
三社數於六軒 寺壱軒
於此所於山於石神

くまより
錦塚村と堺占
一諏塚村小向 茶屋山
生立木より
大山領と堺占
湯本領と堺占
明畑領と堺占
一瀧本村 南向 茶屋山
生立木より
錦塚領と堺占
九ノ川領と堺占

於此所於當石神
家數於六軒 寺壱軒
於此所於立木石神
立望三所立木於石神
家數於六軒 寺壱軒
於此所於立木石神
三社立所三於當石神

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

一 旧畑村 南向 前ハ山
　　廿五石より
　　久保村と境ヒ
　　小川領境ヒ
一 小ヒ川 東向 前ハ山
　　廿五石より
　　濱ヶ領境ヒ
　　大堂廣
一 河合村 南向 前ハ大堂川
　　後ハ大堂廣 東ハ小ヒ川ハ山
　　廿五石より
　　下本村境ヒ

家数 弐拾弐軒 寺 小家共

弐拾七石 弐拾弐石弐斗分

三拾八石 弐拾弐石弐斗分

家数 弐拾弐軒 寺 小家共

三拾五石 弐石分

弐拾七石 弐拾弐石弐斗分

家数七拾弐軒 寺 小家共

弐拾八石 弐拾弐石弐斗分 川端ヲ

楊村村境ヒ
東ハ原ヶ村境ヒ

一 甲ノ四神本宮 未社ヲ内未申向 稚宮一社ヲ拝行弐百
　七寸より 行七反弐畝弐歩 裏一段ニ弐百弐拾弐歩 拝殿内弐百弐拾弐歩 神本宮ヨリ
　ノ通リ 弐百弐拾弐歩 神主一人みこ壱人 毎年四月朔日ヨリ十五日迄 祈祷
　弐百弐拾弐歩 雲月二日ヨリ

一 川端ヲ 須港ト申ス 長サ七百弐拾弐尺 横弐拾弐尺

一 石橋弐ヶ所 川合村ノ内小船ト申ス 村ノ家高ト申者ノ先祖ヨリ由家高ヲ
　ノ家ニ由ヲ付ケ置ヲ 七子孫ニ人今家高ト申ス 河合村ニ弐ヶ所

一 本郷原村 西向 前ハ大堂川
　ハ山

七石所より

家数弐拾弐軒 寺 小家共

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04032

河合村ニ堺目ヨリ
小津岩村堺目迄
一西妻左村ニ向　巾六川
　　　

津荷村ニ隣ル
一耳お村 悟同じ
小蚊元神日記村堺ニ
もろくと人を云ふ事ゆゑ幸ヶ田ヶ堺ニ
お言堺牛塚ニ
一耳お村 東向
牛ヶ石ヨリ中ヶ
請川村ニ堺ニ
皆瀬川村ニ堺ニ
夜瀬村ニ堺ニ
一皆瀬川村ニ向ふ谷川
八町三拾四間ニ仕切
八町
寺里斗ニ而ニ拾五軒
家数弐拾九軒 寺壱
三町ニ而ニ軒
家数三軒 寺壱
牛ヶ石ヨリ中ヶ
斗田三軒ニ
八町斗ニ
一温泉川湯と申して皆瀬川村の川端ニ有之ニ而北向ニ湯出ル
ゆゑ入会入ル人多ニ而ニ軒ニ而ニ
一皆瀬川村ニ而西ニ見さんざいと申池ニ而四囲六丁ニ而ニ
北ニ五丁ニ而ニ囲の石ニ而ニ池ニ而ニ
時ニ池のみづこゑル
一田代村南向 ふほ山
牛ヶ石ヨリ
皆瀬川村堺ニ
三町三軒ニ
家数弐軒

大建村境内

一田代村ゟ四拾弐丁川端きゝに平家の幡竹と申伝ゟ竹七八拾本古生ゟ竹の
ゟ生ゝ系告ゝた親竹かまゟゟ枯ゟ田代村の半不残不ゑゟゟ三拾年
以前ゝ田代村の新たゝ竹とゟます半竹切ゟゟゟ半時半不ゑゟゟ新右衛門
五人持ゝ二ゟ半の弐ゝ死切倍ゟゟ女子壱人持ゝ右金弁ゝ半大建村ゝ
入八年以前ゝ半田村ゝ新九郎大建村ゝ九右衛門新兵衛三人ゝ半の任勢領ゝ
南ゝ酒作ゟゟ梢ゟ掃竹等ゝ有三人ゝゟ共法会ゝ任勢領の酒作りゝて供数
ゟゝて竹切ゟゟゝて苦ゟ弐ゟ半ゝ梢の掃竹三本切ゟゟ半時半牛不ゑゟゟ九
右衛門新兵衛ゝ其年死ゟゟ新九郎ゝ昨年死ゟゟ右の
その告ゝ切倍ゟゟ田代村ゝて牛のゝむらーぶそぶゟゟ

一大建村　南向

家数五拾弐軒

大建村境内

一田代村境内　八所社拾八軒

一浦瀬村境内　七所宮弐社

一和田村ゝ境内　弐所にお八宮

家数三拾軒

一和田村南向

社生所ゟ

一静川村境内　七所五拾弐

大建村境内　弐所

一静川村南向

社生不ゟ

和田村境内　家数百拾軒寺壱

七所三拾五弐

弐住村堺占　　此辻於右ハ於八百
生竹村堺占　　於此所
一　宗行加山の境より乙ノ水此辻ハ此百半ハ此百半ハこの
　半ハ五六百ハ峰ノ峠ハ七拾百同ニ堀ヲ越ル百三拾百同ニ堀ヲ越ル百ハの
　方百九拾百ハ静川山筋の方ハ川領ハ東ニ静川領切ル境ヲ
　六里ニ壱ヶ所ニ境ノ字壱ヶ所ニ梅ノ木ヲ植ル
一　野竹村ハ向
　　此辻所ニ中ス
　静川村堺占　　三町
　弐住村堺占　　於七町ニ於百
一　大石村東向
　　家数百弐拾七軒寺
　　小壱ヶ所

此辻所ニ中ス
本宮村堺占　　於此所五於五百
切原村ニ宮川原ニ計掛リ川ニ壱ヶ所ニ境ノ字ヲ四ヶ所ニ切ル流新宮ヲ
伏木村堺占　　於此所ニ於百
大石村ニ内ハ越行者堂占　六ヶ所
行者堂ヨリ切原村堺占　　壱ヶ所ニハ於百山伏ヲ
行者堂ヨリ東宮堺占　　木ヲ以テ新宮山伏ヲ
一　古境ヲ改ル十年ニ度ツ西東ニ宮仁山境切ル
　古境ハ六百十八ヶ所ニ杭ヲ持ヲ改ル杭ニ表ハ梅ノ木ヲ以テ
　梅ハ新境ヲ仕替ル時ハ方三拾人余死人ヲ壱ヶ所ニ埋ヒ候ヲ守ヲ
　ニ付ル

一伏拝村小河 寺お松村共
　　生産野ニ中ノ
　　お宮村境ノ
　　三軒村境ノ
一切畑村領屋敷ノ
一切畑村南向 前ノ川筋ヨリ左ノ
　　ほ山
　　生産下ニ中ヨリ
　切原村境ノ
　　寺ノ下ヨリ三拾五町 計拾五町十津川ノ
　　西ノ方ハ切畑山口谷東ノ方ハ道法ノ嶺限ヨリ三拾
　　上ハ外境ノ七町五拾間ノ東ヨリ
　　下五ノ東ノ大峯山伏ノ大峯ヘ
　　此内五拾ノ大峯ヘ
一切畑村ノ屋敷ノ
　　桑ノ木ハ畠山茂助ノ
　　未世ノ下ハ
　　寺ノ下ヨリ三拾ノ
　　三軒ノ下ヨリ
一切畑村南向 前ノ川筋ヨリ左ノ
　　ほ山
　　生産下ニ中ヨリ
　切原村境ノ
　　寺ノ下ヨリ三拾五町 計拾五町十津川ノ
　　西ノ方ハ切畑山口谷東ノ方ハ道法ノ嶺限ヨリ三拾
　　上ハ外境ノ七町五拾間ノ東ヨリ切畑村ヘ
　　下五ノ東ノ大峯山伏ノ大峯ヘ
　　此内五拾ノ大峯ヘ
一切畑村ノ屋敷ノ
　　桑ノ木ハ畠山茂助ノ
　　未世ノ下ハ
　　寺ノ下ヨリ三拾ノ
　　三軒ノ下ヨリ
一切畑村南向 前ノ川筋ヨリ左ノ
　　ほ山
　　生産下ニ中ヨリ
　切原村境ノ
　　寺ノ下ヨリ三拾五町 計拾五町十津川ノ
　　西ノ方ハ切畑山口谷東ノ方ハ道法ノ嶺限ヨリ三拾
　　上ハ外境ノ七町五拾間ノ東ヨリ切畑村ヘ
　　下五ノ東ノ大峯山伏ノ大峯ヘ
　　此内五拾ノ大峯ヘ
一切畑村ノ屋敷ノ
　　桑ノ木ハ畠山茂助ノ
　　未世ノ下ハ
　　寺ノ下ヨリ三拾ノ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

新宮表西南北道之法

一三拾四町五間　但供し渡場ヶ川筋渚ゟ　東西

一弐拾九町五拾間　同　南北

一百四間　　新宮川渡場ヶ新宮町端近

一大町三拾間　　町内

一弐拾壱町壱拾間　　町端ヶ三輪崎堺ヶ手洗ヶ浜

一五町拾弐間　　町端ヶ牛鼻渡場ヶ

一拾弐町　　町端ヶ但供し渡場ヶ

一弐拾壱町　　清水濱ゟ

　　ヶ手洗ヶ鞆原堀川端ヶ三輪崎ヶ本町ヶ清濱七里ゟ内也

一渚ゟ百四十間ヶ

二十丁ヶ所手洗ゟ鞆原堀川端ヶ迄

一渚　堺ゟ堺

　　別帳ゟ記ス

新宮社内之坪

一金剛山金剛寺　山号寺号社人案内

　宮之間数　東西百四間
　　南北七拾六間

一十二社

　上四社

一西御前　一社作　面四間六寸二尺半　但十六尺二寸間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一中御前　一社作　面四間六寸二尺半　但同断
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一祇陁神殿　一社作　面三間半二尺五寸　但十六尺二寸間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一若一王子　一社作　面三間半二尺五寸　但十六尺二寸間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

　下八社

一禅師宮　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一聖宮　王子作　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一児宮　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一子守宮　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一十万宮　王子作　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一護頂十五所　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一飛行　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一朱持金剛宮　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一御所宮　王子作　面八間五尺二寸五尺　但一間ニ積ル
　　屋檜皮葺　梅宮葺

一二切経堂　宝来作　梅宮葺　仁二重ニ積ル

一阿弥陀堂　三手組　仁二重ニ積ル

一南楼門　三手組　仁二重ニ積ル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一 神樂屋　今ハ假社

一 經所　今ハ假社

一 四足門　三棟作　高サ三丈六尺　柱瓦葺

一 護摩堂　三間ニ四間半瓦葺

一 赤土門　二手ニ　三間ニ四尺　大方土葺　二方ハ小方ハ瓦葺

一 鐘樓堂　二手ニ　梅ハ葺　四間ニ三間半瓦葺　小石垣ノ上ニ柱ヲ立テ屋ヲ

一 滿山護堂　今ハ假社

一 御輿　土葺

一 御船　土葺舟形　長三尋二尺　梅現ノ内

一 如法堂　三棟作　面三間、五間仏八尺四方　小方ハ瓦葺

千日ノ籠ノ時ハ今ハ行人屋トス

一 庵室　前ノ五間ニ四間　梅現ノ内

一 馬所　前ニ同ジ　東西五尺間　南北弐尺六間　新山

一 御輿所　東西五尺間　南北弐尺六間

是ハ九月五日御神事ノ時神輿ヲ此堂ニ入奉ル

一 御船場　大川ノ真中廻リ百十間上リ平均ニ五間　下リ弐百五十間上ヨリ二間ヲ

是ハ九月十六日ノ祭リノ時御船ヲ出ス

一 明見　新山ノ内　未社　只今ハ社ヲ建テ座ス

一 小藤鳥　梅現ノ内　未社　只今ハ社ヲ建テ座ス

一 御神前　山伏堀ノ内　未社　只今ハ社ヲ建テ座ス

一 谷子宇　谷ノ口ノ内　未社　只今社ヲ建テ座ス

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一 ヲ坂干守　権現社之内　未社ニ今社ニ有ル産ノ
一 鍵宮　権現社之内　同所
一 御馬屋　権現社之内　未社ニ今社ニ有ル産ハ
一 赤ニ敷石　同所　同所
一 行者　同所　同所
一 多ノ贄ノ場　権現之内　同所
一 大黒　同所　同所
一 大ニ敷石　同所　同所
一 御供所　権現之内　同所
一 速歌所　権現之内　未社ニ今社ニ有ル産ノ
一 裏屋　同所　同所

一 大般若納　同所　同所
一 西ノ敷石　同所　同所
一 廻廊　権現之内　未社ニ今社ニ有ル産ノ
一 閼伽井　同所　同所
一 小門　同所　同所
一 下馬橋　権現之内　未社ニ今社ニ有ル産ノ
一 湯殿院　同所　同所
一 不明　同所　同所
一 楼門　同所　同所
一 三重塔　同所　同所
一 今弥武　同所　同所

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一大鳥井　十二間弐尺八寸程　柱大サ石口三尺壱寸
権現　　来口三尺壱寸位ニ伐ル由申候
一小鳥井　弐ツ　　只今ニ無之候
一同　玉垣　　同断

権現鳥居ハ山際地面林茂鳥居ニ八間弐尺弐間ハ人家ヨリ未申ニ当ル

神殿　山ニ付往古来洪水ニ而も不流由申伝

一下馬札　只今ニ無之候
一鳥井　寸法左之通
柱大サ壱尺八寸
笠木壱尺八寸
貫弐尺四寸
柱間弐間
一中門　三室作　面口弐間ニ三間　先権現ハ九尺九寸柱
竹ノ家ノ東ニ有ノ弐ヶ所有之候
一権法室　面口五寸四方柱掟之通
一神供所　只今ハ仮社
一大黒堂　同断

一本宮　辰巳向　三室作面拾弐間ニ七尺　但七尺間九柱
宝殿彩色塗金物
一子之宮　只今社無之候
一庚申　辰巳向　宮出迴リ弐百疋弐弐分

権現ヨリ先ニ鳥居所ニ入堂有拾ヶ所ニ拾弐ヶ所人家ノ宮邪ニ有

一鳥井　寸法左之通　柱大サ弐尺
一玉垣　只今ハ無之候
一仁王門　寸法左之通　柱大サ弐尺三寸
一神楽社　面三間半ニ五間弐尺但六尺五寸間ニ勝ノ石壇
梅鉢菩提形ヲ塗金物
一三狐神　面三間弐尺四方ニ而為御口屋ヲ為建
八尺四方拝殿ヲ為建
一徐福宮　面本市中市但六尺五寸角柱
一清供所　面五間ニ四間但六尺五寸角柱

一 井戸　　ほとの名ばかり

一 蔦神　　此人家社多き所なり
宝蓮山ト号

一 岩戸　　此人家社多き所なり

一 井戸　　唯名のみ残る

一 鳥井　　此人家社多き所なり

一 徐福廟　　飛鳥北前梅山組に有

一 浦ノ王子　社ノ内　　東西ノ入口北に有
南向ニ叮
さゝら波打除占ニ叮

一 鳥井　　唯名のみ残る

神宮内

一 八幡　一社　　言ニ及ニ及ず
面ニ尺七寸ニ尺ニ寸ニ尺五寸
長指ニ尺ニ寸ニ尺五寸角柱
彩色塗金物

八幡宮山廻り百間

是ハ根本を悦住神事祭ニ魂神遷法ト
新宮氏門ニ有ル社神ニ内

一 玉垣鳥井　　此ニ二基有

一 小宮

一 脇ノ井戸　　此ニ二基有
矢倉山ニ有

一 矢倉大ノ井　　寺ニ面ス社
叮標ニ北ニ北ニ百叮ノ印ノ二ツニ有

一 鳥井　　此ニ人ノ二基有
中柱ニ寸ニ寸ニ有ノ伴ノ名和ト田ニ寸ニ寸ニ有ノ後石橋
ト称ス寸ニ有
井筒山伐行初山ニ下ル中ニ休憩掛ノ石祝ト由

一 玉ノ井橋

一 腰掛石

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一十郎行宗屋敷

一献燈松

一量石
　榊山之内

一立柏

　新宮町在家ニ並ニ有之

一舞楼松有

　此外天王神宇治ニ三年十月八日神仕ニ来候物ニ仕
　三枝年号より
　此宇多院ハ宇治ニ於テ五法制有弘安五年十二月神仕ニ来候物ニ仕
　候茅ハ石ノ由社人申候

　暁蛾ハ本名ハ鈎枯ト号
　表面ハ八五枚三寸半
　同　厚ハ入枚三寸
　南北四ケ所ニ枚有
　南北東方ハ枚八寸

一矢倉山　廻リ三百五拾間

　従古来北榊山榊主榊屋敷孫次郎屋敷ニ有之候処今ハ之字孫ニ残ル

榊ニ大川岸ニ有

一鍋割岩
　長山ニ根ニ有

一蘭亭沼　南北五百東西拾五百北ノ深十五尋ニ余ル
　清水ハ湧ニ石除ル

　此内ニ斗ニ百廻リの小池ニ神新祝ヒ下ニ由神新命ヲ
　東西斗ニ百南北九町六百

一座主屋敷　東西ニ有之候ニ付南ニ有之半
　表ハ北ニ有之候半南北ニ有之候半位有之候ニ付南ニ有之候ニ付

　榊現社ニ除ル

　座主ノ内
一護摩堂　三堂
　三間ニ四間大開八尺五寸
　榊ハ萱小屋ニ有之候ニ付

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一 主屋　九百、七百位六尺五寸程

一 庫裏　梁三百八百位六尺寸程

一 不明門　梁三間

一 梅門　梅は菩提樹

一 東仙寺客殿　東西へ六三尺三寸程 内へ入九百 南へ三尺寸程

本尊　阿弥陀
千手観音

大治五年庚戌菊蓂公息女芒田腹左ニ生玉ヒ地也依之号丹鶴山
東仙寺

一 東陽山宗慶寺客殿　五尺六寸程　南へ六尺許引入
斗六六寸程　内南へ入後山也

従古来寺地ニ而此村名ヲ以称ス祢寺也但中興昔長松之年ヶ

豊浦崇和尚庵ヶ近ニ代也

一 無量寿寺　古跡客殿　東西弐六ニ間南北梁弐間
新池堂　三間ニ四

一 茶庵　由良流　永仁元年ヶ栄三百五拾年ニ施ス而ヶ

一 清宗庵　右同断

一 清閑院　右同断ニ付境ヶ申ニ為ル断ニ而

一 松岩院　右同断ニ付境ヶ西ニ為ル断ニ而

小社八ヶ寺

一 八坂九家　三ヶ社人中

内　武松家相生源氏相生村ヶ書付ニ上ル
　　外家ヶ梅及村ヶ書付ニ上ル

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一三軒 家 新笹寺敷

一弐百九拾弐軒 家 新宮町中

一弐百五拾三軒 家 外下人

外六拾家

一宇井久鈴木根本新宅二預ケ候石垣共ニ四家ト唱ヘ候得共其外弐拾家数
多ク有之ニ

一上鮭生中鮭生下鮭生三鮭生ニ根布也

一三輪崎浦 巽向 佐字山前ノ海 家数弐百五拾八軒 寺弐軒

但三輪崎ヨリ久井ヒノ海上ヲ里数ニ
ヨリ

一佐野村 巽向 佐字山前ノ海 家数八拾七軒 寺弐軒

但三輪崎ヨリ大海

一比立所ヨリ

木川場目ヒ

比立所ヨリ

新笹場目ヒ

佐野場目ヒ

一弐百五拾弐軒 家 新宮町中

一弐百五拾三軒 家 外下人

外六拾家

一宇井久鈴木根本新宅二預ケ候石垣共ニ四家ト唱ヘ候得共其外弐拾家数
多ク有之ニ

一上鮭生中鮭生下鮭生三鮭生ニ根布也

一三輪崎浦 巽向 佐字山前ノ海 家数弐百五拾八軒 寺弐軒

但三輪崎ヨリ久井ヒノ海上ヲ里数ニ
ヨリ

一佐野村 巽向 佐字山前ノ海 家数八拾七軒 寺弐軒

但三輪崎ヨリ大海

一比立所ヨリ

木川場目ヒ

比立所ヨリ

新笹場目ヒ

佐野場目ヒ

久集ヒト場ヨリ在ヒ迄ノ海上三町沖ヘ乃東西(寺南)ノ方ヘ突出ス岩有之ヲ廻リ之
ニコロヲ弁才天ヲ祭ル廻リ之磯木有
漁舟ヲ繋ク(立南)ヲ列居ル方海上ヲ町半沖ヘ乃半島ヲ廻リ内ヘ入ル
事凡ソ三拾六町場ヲ内ヘ入ル事ヲ三百ヲ五百ヲ半ト名付ケ
ル

家数八拾七軒 寺弐

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04032

三軒家堺目迄　　汁町三軒家百五軒

一久井堺目迄　　於町於百五軒

王子権現より四町許於百(丙南)神の方於宮位六尺寺四方の宮築向於宮より六百年以前
古建営之時百四十三尺八寸の石橋ありそは昔花将軍
由り仰ら於て六拾年以前占吻神性来ると若しと人と於文政同録云りかなる権
現と並称の石昔小松原小宮にて佐理松原と申伝一年百年以前小松なく今は唯
一宮小松稲荷三軒家迄

一本川村　南向(須筆ヵ)前面畑

家数百五軒　寺共

佐性堺迄　　三軒家迄　百軒

土建(かうつか)堺迄　　於町　五軒

一久井浦　巽向　前浅海

家数六拾五軒小詰共

海上勝浦迄壱里半三拾町迄壱里外海

佐性堺迄　　五町於百五軒

演舌堺迄　　三拾町百五軒

便り小松五本より乾(西北)の方三町許於百陽り廻り於六百寺より嶋の上に松弐本由於
能生権現向ふり五本より乾の方弐百間許於百陽り廻り於六百寺より嶋の上に松弐本由於
松と申伝ふ一此嶋より巽向へ前ハ町許り沖に目立嶋と申於百東西
へ壱町五拾百南北へ弐町許於百寸三拾五百ろ

古歌ヨ　　目出度山お祝空高北も晴
　　舌松の松北ふいろ(いろ)より
と古於(ふるき)由と申伝
と若と申五本より於以町陽り乾(西北)の方弐百間許於百南北へ弐町許於百寸三拾五百ろ

此村往来ニ当寺ヲ人ニ村指文ニ記候ハ
仁云ヲ由

一 寺津村 午南 佳ノ小禁山
　　若ハ小川
　　此左所ヨリ
　木ノ川堺ヨ　七町三拾五間
　物ヶ川堺ヨ　三町拾五間
一 物ヶ川村 南向 前ハ小禁山
　　此左所ヨリ
　高津業村堺ヨ　七町五拾間
　　此間ニ
一 濱宮村 巽向 後ハ愛山
　　若ハ海

　　家数ニ拾七軒
　　家数ニ拾七軒
　　家数ハ拾三軒 寺ヲ除ク

　　但シ文井村ヨリ入海ヲ
　　此左ヨリ
　文井堺ヨリ　拾四町五拾間
　天満堺ヨリ　拾四町拾五間
　川尻堺ヨリ　拾四町拾五間

補陀洛山寺ハ乾ニ南ヘ
三所権現寺ハ十艮向ニ当リ此方権現ハ十間ニ当リ有田南ニ北ヲ向ク
十間ニ当リ有田南ニ北ヲ向ク鐘撞堂ハ
瑞籬（みずかき）ノ内東ニ向ク二拝ノ宮南ヘ二拝ノ宮瑞籬ノ外ニ拝殿ニ向ク二拝ノ宮本ノ二宮
ニ当リ井ヲ波ヲ除ク斗町ニ当リ寺ヲ
北ヨリ乾ノ南ニ女体山ヲ仏廻リ十余町ニ拝ス当リ本社ヨリ南ヘ拝

八百二丈九尺東西へ九百尚北へ折曲り南へ九百二丈九尺
東へ百二十八丈廻り古ヶ東西計北へ百七間三尺南へ三百
三十三間三尺廻り往還と之間ニ溝ヶ折曲五尋程ニ丈九尺
ニ而北へ百七間三尺南へ三百

…久井古海上七里半余　左加浦古七里海上
大牡浦と申候て四町計も有之隔り小生不参候
…参と申古町に有之候　今は町こと神内浦と
…来候湯と申は茶が磯と南り海端に有之候
…申候
…磯の湯と申は大脇浦が磯と南り二町隔り
…有之候と横内峯山より西を至磯に候
…今宮と申大浜浦より続南り三町隔り海端
…座に嶋之権現拝殿と申候
山海景と申は左不参候より拾五町隔り古九百五十七石六斗八升
…昔平家の三位中将維盛卿入水被時は…
…此書付参と申候…其外今二書…
…里程神…場所…
…耶書之内
一川尻村　未申向　…
…前小川　…
…法立不参
…浜宮権現
…天満宮
…井関明神
…左不参
…五町計有之
…二町三拾六間有之
…左不参
…菊三町三拾六間有之古地有之
…よし之由
…那智之内

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一井閑村　西向　流れ小川
　　坐不知
　川向堺目ニ　　此所ニ
　平地村堺目ニ　　右六所ニ
　市里ニ村堺目ニ　　六所ニ
左より東へ南り古塔の北ニ至ル門書坊と申仁新宮坂也
今住時法立寺塔ニ由ニ於年金ニ
那智之内

一市里ニ村　東申向　後ニ山
　前ニ川
　　坐所ニ
　　家数ニ不立宗　寺小宗共

一満山護法　子丑向
　　八処ニ宮ニ七百社ニ入祭ニ方ニ有面七尺ニ六尺但三方三尺六寸棟ニ百ニ
　　奥ニ四百ニ

元本欠向一枚脱落ト
考フ

一熱瑞仏語会ニ於ニ百但六尺寺百
　満山護法ニ七百ニ入祭ニ方ニ有面三百ニ社ニ六尺ニ寸百但三方三尺六寸棟
　在ニ社百ニ三百社ニ入祭ニ方ニ有面三百ニ社ニ六尺五寸百ニ但棚有リ
　行者堂ニ社百祭ニ方ニ有面三百ニ社ニ六尺五寸百ニ但棚有リ
　長七面幅三尺五寸ニ有面白砂ニ有リ

一行者堂　子丑向
　面幅四間ニ四向但八尺間斗方三尺ニ棟瑞籬ニ有リ白砂ニ有リ
　但ニ小宮拝
　長九百ニ斗百但十尺五寸百ニ如ニ幸摂堂ニ斗拝殿ニ間ニ三ニ但棚
　年ニ々三百祭ニ向ニ方ニ方三百ニ面但七尺百ニ今ニ但棚

一御供所　丑向
　面三百ニ四百ニ但六尺五寸百ニ但棚有リ
　行者堂ニ社ニ於ニ百ニ
　拝

一鳥居　西向
　面幅ニ間ニ四向但八尺間斗方三尺ニ棟瑞籬ニ有リ白砂ニ有リ
　但ニ小宮拝
　長九百ニ斗百但十尺五寸百ニ如ニ幸摂堂ニ斗拝殿ニ間ニ三ニ但棚
　年ニ々三百祭ニ向ニ方ニ方三百ニ面但七尺百ニ今ニ但棚

一拝殿　西向
　面三百ニ四百ニ但六尺五寸百ニ但棚有リ
　行者堂ニ社ニ於ニ百ニ
　拝

一廊下　卯酉向

一護摩堂　卯酉向

一供戒所　丑寅向

一外法ニ於ニ堂

一閻魔大王堂

一鐘楼堂

一 笈掛石

一 三重ノ塔 未向

一 鎮守宮

一 内所拝殿

一 降石 寅卯向

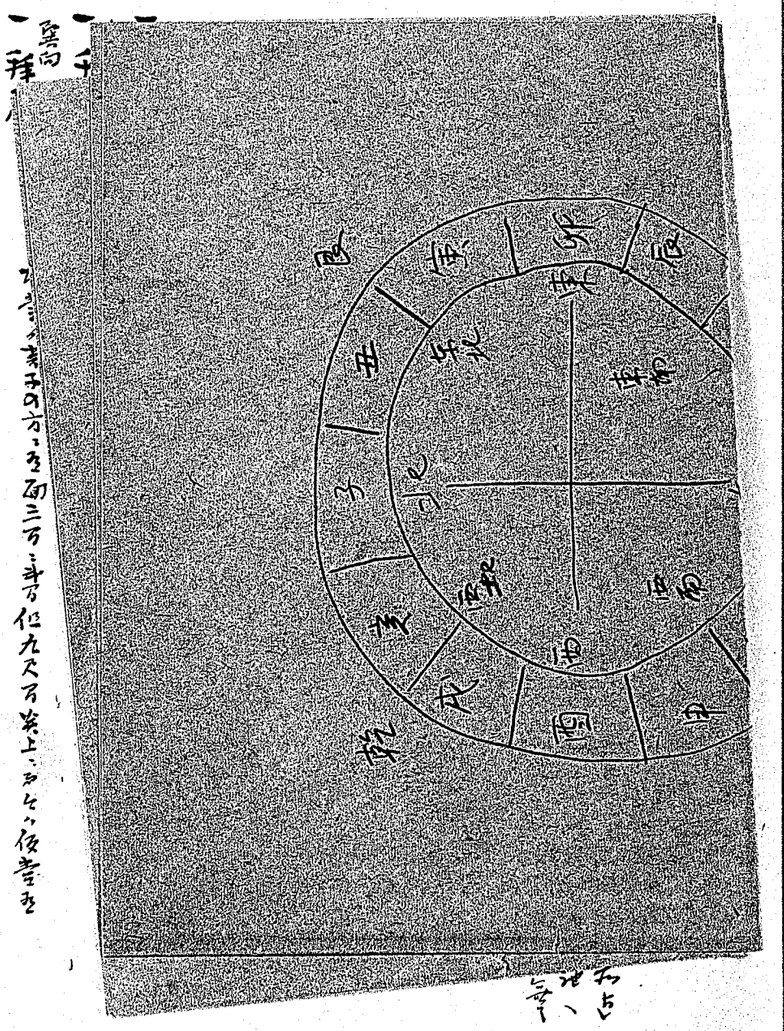
一 弓勝ノ傳

一 牛洗橋

一 新宮瀧 北ノ向

一 伏拝

一 遠石



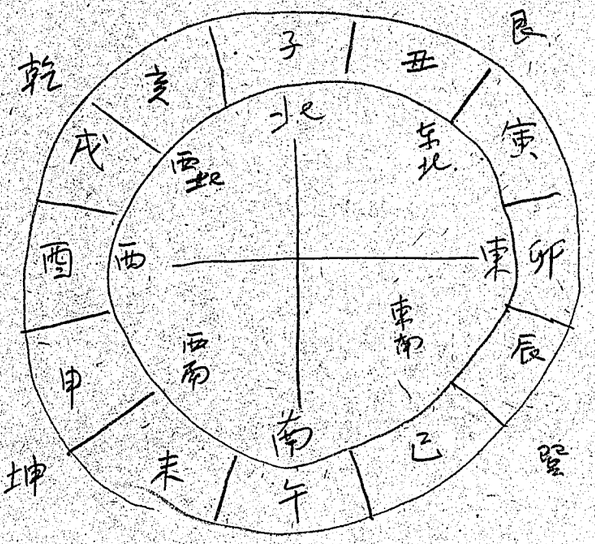
一 地蔵堂 神向

本堂ノ向七丈辰ノ方ニ面三万二千仏九丈百巻上ニ乗ル仏壇ニ

一 拝 巽向

水垢離場ノ東ノ方ニ面三万二千仏九丈百巻上ニ乗ル仏壇ニ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

分会長）殿
本部委員

来年度予算については例年とちがって一応義務ヒとその他にわけ義務ヒについての要求見積を先にする方式をとっており教委事務局内に於てもその準備が進められてなり組合としても下記の要項について準備してありますが分会においてもそれぞれの立場から要求事項があろうかと思いますので検討の上なるべく早目に御返事御報告願います

定員について
1 教職員の定員は乙号基準100%を完全に確保
2 事務職員の定員増加
3 実習助手の定員を増加　特に理科関係助手の増員
4 教務指導主事の定員を新しく増加
5 養護教員を増加　特に定時制に一人の増員
6 使丁給仕の定員を増加　一名の所は最低二名に増員
　特に分離校定時制に配慮せよ
7 警備員を一校一人新しく配置
8 学校図書館司書の定員を新しく配置
9 事務職員の産休補充の制度を考えられたい

給与について
1 年間完全昇級昇格財源を確保
2 不合理是正予算を確保
3 教職員給与の初任給を10万上げ中だるみ是正を行い一率月額2000円を切上げる
4 号俸の格付けと現行最上位給与表を規準とする俸給表の一本化　財源の確保
5 夏季手当は一ヶ月分　年末手当は二ヶ月分プラスアルファ年度末手当は0.5ヶ月の予算化
6 日宿直手当を一回960円に増額　土日旺半日直手当を一回480円として支給されるための予算化
7 結休者三ヶ年給与全額支給と一ヶ年身分保障のための予算化
8 暫定手当の底上げ方式による本俸繰入と臨時措置としての差額県費負担の予算化
9 舎監手当の増額
10 使丁給仕日宿直料の増額
11 使丁給仕の定時制業務手当の増額
12 産業教員手当の10%支給
13 通勤費の増額　住宅ヒの支給
14 教員研究ヒとして月額2000円を支給
15 定時制勤務職員に対する夜勤手当俸給10%支給
16 事務職員定時勤手当8%への増額
17 入試手当の増額
18 一般校には年額一人当り10.000円として寄生徒ヒ支給とする増額
19 僻地勤務職員に対する調整手当の支給
20 給与条例改善のための予算化
21 婦人保護の6等級並への予算化

身分保障
1 互助組合補助金の大巾増額
2 恩給　退職金制度上よりの不利の解消のための予算化
3 結核休職ヒを全額負担する

施設、設備
施設設備の改善
高校適正規模に対する抜本的方策をたて設置ヒにもとづく県全額負担の予算化、就中おくれている高校施設の早期充実のための予算化

設備費要ヒ
各学校別の要求書による完全予算化
PTA、生徒の為の対策
1 施設、設備、需要ヒをPTAに負担させることのないよう県費予算化を実現されたい
2 PTA費による職員、県費職員に切換えうる予算化
3 授業料　値上げ及び減免制度の拡充
4 定時制給仕については県費職員とすること
5 就職指導　進学指導のための予算充実と増額
厚生について
非常勤講師、PTA雇い職員の教員保険保障のための財源を獲得

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一 笈掛石

一 三重ノ塔 東向

一 鎮守宮

一 日所拝殿

一 俳石 東南向

一 弁財ノ佛

一 弁天祠 北向

一 新宿瀧

一 伏拝

一 遙拝

長サ七丈余ナリ三丈至リ六尺ニ至ル小瀑布ノ形ヲ成ス左ハ掛ケ出シ右ハ伏拝如意輪堂ノ拝ニ当リ一方ニ三百仏八丈四方ノ巡拝如意輪堂ノ左ヨリ面七々六丈寺ニ沿ヒ面三百弐百仏六寸ニ六分ノ退拝

如意輪堂ノ北ニ方ル三百仏九丈四方ノ巡拝

如意輪堂ノ北ニ於テ右ニ方ル三百仏九丈寺ニ沿ヒ面三百弐百仏六寸ニ六分ノ退拝

如意輪堂ノ北ニ於テ左ニ方ル三百仏九丈寺ニ沿ヒ面三百弐百仏六寸ニ六分ノ退

別所梅擬宝珠ノ銘
弘安永二年十二月廿五日

時ノ大使ナリ

子丑向
一閼伽井
南向
一護摩堂
一別和梅
南向
小ナリ不
一山上堂
一供燈護摩壇
時向
一市門澈
一花山院法皇、御名ヲ
普ク天下ニ称ヲ別法皇ト御製ニ
木ノ本ヲスヽキノ家ト書レタルヲ
花ニ有ル人ト詠ヲ
六尺四面切石堂ノ指渡四百五百、六百但六尺五寸
閼伽井ノ九百余、三面五百、六百但六尺五寸
護摩堂ノ九百余、三面五百、六百但六尺五寸
縁ヨリ
本梅ヨリ
ナリ
本梅ヨリ
ナリ
ナリ
ナ

一文学誠　東向
一奥之院　南向
一法性新堂　西向
一地蔵堂　北向
一清見橋　東初向
一大門
一社家之図
一民家
一旧井原
一振旗洗橋
一二、清橋

一一の滝ハ斗町合流シテ文覚滝ハ入唱滝ノ如シ号滝ハ入間ニ
ヨリ大谷川ニ合ス拾町余ヲ
寺ヨリ二百弐十間ノ方ニ二百四間位六尺五寸
寺ヨリ二百弐十間ノ方ニ三百四間位六尺
寺ヨリ北ノ方ニ三百三斗間位六尺
奥之院ヨリ二町廿三間ニ七三百二十六尺ノ仮橋
清見橋ヨリ三本六百二間ニ三斗間位八尺
大門ヨリ寺ノ半丁丑寅ニアリ
寺ヨリ社家之図ヨリ三町六十間
図ニ三斗間位六尺五寸
民家ヨリ三本六百半ヲ位長木百本許ニ今仮橋長七百六尺
振旗洗ヨリ六町ヲ拾間ノ半ニ仮橋長木斗ヲ半ニ
拾余

一市聖宮
一寺中警
一旧　橋
一妙法山
一宝物等
一先仙領
一帽子石

二町余ヲ立町ヲ
辰巳ニ七町ヲ
丑未ニ六町半ヲ

那智山ヲ妻ニ不動ヲ本地ト申ス山ヲ妙法山ト申ス山ヲ妙法山ト申ス
ト仰ラル中興ハ仏法大師弘法ハ新堂ヲ建ラル
那智山ヲ妙法山ト号ス宝物等ト申ス
光ヲ放テ大望ヲ拳映像ヲ寄ヨリ
激布ヲ五本町ヲ不ト称ス
焼ノ護摩ヲ修行ノ時天ヨリ帽子石ト名付リ
ヲ下ス時ヨリ帽子石ト名付リ
ヨニ至テ帽子ヲ如ク

一妙法山

寺号　阿弥陀寺

山ノ廻り大形三里二町

山寺ヨリ井関村ノ汁水寺ヘ町五十間

市場ノ村ノ　　於テ九町五十間

那智山ノ　　於テ三町五十間

小板村ノ　　於テ五町五十間

平建村ノ　　於テ五十間

一、妙法山寺ヨリ向拝行基ノ寺ヘ　十二町

今ノ内五百石ノ寺ヨリ八丁ノ鳥井ヲ大師堂ノ五百メ上ニ薬師堂ヲ北向ニ立

ニ方ノ峯大師堂ノ五百東ノ方ニ寺四ツノ阿弥陀堂ヲ

一、寺ノ寺ヨリ北ノ方ニ五尺ノ石ノ峯ヲ十二丁ニ登リ深サ五寸ニ六寸ノ井

ヲリ此ノ出水ヨリ北隠水ト申ス名水ノ一ツ

一、寺ヨリ十三町二十六丁峯ニ六寸浄土ト申ス堂ヲ神社ノ勧進ヲ

那智ノ内

一、湯河村　東向　男ハ黒山　菊ノ通

於五所ヨリ

大滝村堺目ヨリ　　九町

松川村堺目ヨリ　　三町

一、五所ノ内ニ温泉アリ此湯坪ハ四深サ弐尺三寸塩梅入ノ熱湯時節中

昼夜ニ湧ク出ル事隔テ廻リ寺ヨリ町ハ九十丁ノ谷ヲ

薬師堂ヲ北ノ山ノ根ヨリ出ル湯ノ事

那智ノ内

一、大地濱　東向　後ハ山　前ハ海

家数百三軒　寺ノ家共

倫る物智二ツ
　中ほねより
下里お堺ヒ　　おそ吹山ゟ
同海上　　そこより
　　おそ吹山ゟ
　　そこより
一、才洗の浦と申ハ左ノ小松三株中切植置候故浦の名ハ
　浦ゟ才洗の浦と申伝ハまた才洗と単ニ申候
同海上
一、第一の境ニ等山ゟ西ノ方ニ大木の杉三本於有之ハ南ハ斗吹ハ東ハ
　有先年天正十年の比ハ川原古川ゟ原新宮城内原古ハそこゟ地
　古和宗の女性ニ妹を大地の者共梅ニ乗の大将を看病分ゟ地原ハ云せ

き舞追掃ヒ
一、左御峠と申ハ左ハ之方旅人町ゟ右ハ
　摩訶耶所ニ寛永十三年子ノ十月ニ変ノ時番所ハ定ル
一、御崎ゟ吉町汁筆鳴と申ハ鳴有廻り三拾百六間ハ五百半ゟ天正の比ハ
　鳴ニ而上下の船ニ帆別ニ取ニ来ル時ハ此鳴ニ而ゟ伊勢ゟ来時の法
　倫有ゟ
一、左ハより子ノ方ニ海上ニ拾町ゟ隔て夏山と申浮ゟ出ル山ノ
　上ニ朱オ天ゟ他ニ又ゟ方ニ宮有ゟ朔日十八日ニ就燈上ゟ有ゟ伊勢ゟ来オ
　天ゟ吉町ゟと南ノ方海端ニ岩穴有ゟ口ゟ斗ゟ口ニ宮居座ハ奥ノ那智山瀧本
　ゟ通りなと申伝
太田江内
一、梅川村　原ゟ内　前ハ深山
　　家数拾弐軒
　　寺壱ケ所
　　小家共

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

湯河村堺目ゟ　七町九拾間
二河村堺目ゟ　五町五百九拾間
一二河村　右ハ太田江ノ内　東向　前ハ集山
家数ハ本古家ニ而小家共
此左所ゟ
橋ノ川村堺ゟ　九町拾五百九拾間
市右村堺ゟ　松五町拾弐百九拾間
一市右村　右ハ太田江ノ内　西向　後ハ笹山　前ハ川
家数斗ハ九軒小寺共
此右所ゟ
二河村堺目ゟ　弐町拾間
米田村堺目ゟ　弐百九拾間

一和田村　右ハ太田江ノ内　東向　前ハ川　後ハ笹山
家数四拾ハ古家小寺共
此左所ゟ
市右村堺目ゟ　三拾弐百九拾間
左村堺目ゟ　壱町拾弐百九拾間
八反鑓（ヤタガヤリ）村堺ゟ　斗町
一左ハ禁山の内ニ茶師壱人屋敷弐百三拾七坪寺領
百四拾弐石ニ而屋敷寺号ハ大泰寺ト申ハ先年梅田安芳守
右代ゟ寺領十一石屋敷ニ而茶師の由来不分明ニ
右ハ内小寺
家数拾九軒小寺共
右ハ内ノ傳
一森ノ浦　右ハ笹山　南向　後ハ海上
此右所ゟ

勝浦庄
太地堺庄
同海上
下里堺庄
市屋村堺庄
一下里村　太田江之内　南向　前ハ海川　後ハ峯山
太地堺庄
海上船百
八尺野堺庄川之
粉白堺庄　川之

海上壱里余
陸地木叶山有
壱里
四叶　山有
五叶　山有
家数六拾軒余　寺壱
六叶余木有山有
壱里半

一八尺野村　太田江之内　南向　前ハ川　後ハ峯山
太地所より

家数弐拾九軒　寺壱
市屋村堺川之
和田村ニ堺庄
下里村堺川之
粉白村堺庄
一粉白村　太田江之内　南向　前ハ海　後ハ峯山
太地所より

八叶木有
家数木九軒　寺壱
下里村堺川之
八天野村堺庄
浦神村堺庄

七叶
木叶木立有山有

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一浦神村　東西南　若干漆有
　　伊予国ノ内
　　十五所より

　　戸数三千三百　小家共

　　水五町　山有
粉白村堺ニ
河海上ニ有

　　水五町　山有
在村堺ニ　　戸数
下田和村堺ニ　　格五町　百箇

一佐礒村　東巳南　伊予国ノ内
　　十五所より

　　戸数三千五百　小家共

上河原村堺ニ　　三千百
下河原村堺ニ　　斗叶

池山村堺迄　　斗叶

一五所より丑寅に当り古城と称する山の根通り水叶二千百三十間余有り此
斗叶百二十九歩余有之山の根通り水叶二千百三十間余有り此
間一里余山道嶮岨なる山の峯続き城郭の形ち有之
谷川迄出る城と称し由比ヶ城ハ三千百歩余有之小川より西ハ山
先年田村半三郎と申す者の拵へ由天正十年の頃——古座の小山屋敷
川原屋敷城と称し城郭の形ち有之
古斗人より大将仕陣郷を隆一合戦仕追拂ハれ其時より
ハれ北村の内に住居し新地を開き
住居

一上田原村　東南の内　伊予国ノ内

　　戸数七千五百　小家共

佐郷村境ニ入紅
大井村境川ヲ
中里村境川ヲ
中川村境ヲ
宇内村境ヲ
一中川村　南向　荒ノ川
　　除ノ峯山
　　此左所ヨリ
川本ヨリ谷々出ル里村ノ流レ
大井村境ヲ
斗代百ニ付
三斗ヨリ
家数百六九家寺
小家共
佐郷村境ヲ
中里村境ヲ
一大井村　南向　前ノ田地
　　除ノ峯山
　　此左ヨリ
中里村境川ヲ
中川村境ヲ
宇内村境ヲ
一中川村　南向　荒ノ川
　　除ノ峯山
　　此左所ヨリ
家数斗代ニ家小家共
佐郷村境ヲ
中里村境ヲ
一庄村　南向　荒ノ峯山
　　此左ヨリ
浦野村境ヲ
中里村境ヲ入紅
和田村境ヲ
斗代百ニ付
三斗ヨリ
家数三百六家小家共
和田村境ヲ
一中里村　西向　荒ノ田地
　　除ノ峯山
　　此左所ヨリ
上田原村境ヲ
斗代百ニ付
三斗ヨリ
家数二百ニ家小家共
斗代百ニ付
三斗ヨリ
家数三百六家小家共

長井村境ヒ

一 長井村　東向　荒神川
太田ノ内　ほかなし山
　　此在所より

中ノ川村境ヒ

高吉井村境ヘ入ル
一 十吉井村　南向　荒神川
口　ほかなし山
　　此在所より

長井村ヘ行ク

小西村境ヒ

一 小西村　南向　前後禁山
谷川ノ内
　　此在所より

家数弐拾七軒

　　家数三拾八軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾軒

　　家数弐拾軒
　　此在所より

家数弐拾七軒

　　家数弐拾七軒　寺壱
　　此在所より

三吟百韻

太田ノ内
十吉井村境ヒ
谷川ノ内
中ノ川村境ヒ
大倉迫ノ内
椚山村境ヒ
口
池ノ山村境ヒ
谷川ノ内
一 中之川村　南向　前後禁山
　　此在所より

家数弐拾軒

谷川ノ内
一 鮫淵川村　東向　深谷川
　　此在所より

家数弐拾七軒

　　家数弐拾七軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾軒

　　家数弐拾軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾九軒

　　家数弐拾九軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾軒

　　家数弐拾軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾軒

　　家数弐拾軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾七軒

　　家数弐拾七軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾軒

　　家数弐拾軒　寺壱
　　此在所より

家数弐拾九軒

　　家数弐拾九

中川村境目ヨリ
一田ノ垣内村 東向 浪ノ峯山
　　此五所ヨリ
八ケ所ヨリ北ノ方山アリ
　　宗教浄土宗小寺共
龍渓川村堺目ヨリ
古峯ノ内
垣内村堺目ヨリ
　大平村堺目ヨリ
一大野村 南向 荒ノ谷ノ葉山
　　此五所ヨリ
　　宗教真言宗小寺共
田ノ垣内村堺目ヨリ
七ケ所ヨリ北ノ方山アリ
一口宮川村堺目ヨリ
小宮ノ内
八ケ所 山アリ
漆本村堺目ヨリ
北ノ方山アリ

那木堺山ヨリ
一経塚有之ト申傳ヘ有来ル九百十歩ニ三百廿五歩ノ内ニ
四方ノ社壇ヨリ廿間ノ内ニ御備松木ハ廿年ノ内ニ二本ハ枝ニ
羽ノ蝶ヲ彫ル石ヲ埋テ書アリ 弘安年代ト消却ス
五尺ニ三本ハ地ヨリ赤ク白ク赤ク白ク黒ク 横ニ引ク筋ヲ
経塚有之ト申傳ヘ有来ル 南ノ方ニ経筒有之ノ内ニ一本ト申傳ニ
彦ノ廻リ四尺 深サ三尺ヨリ岩ニ当ル 横ニ引ク筋ヲ
この土ノ下ノ方ニ杉ノ木十九本ヨリ
一口宮川村 南向 荒ノ谷川ノ内
　　此五所ヨリ
　　宗教浄土宗小寺共
大野村堺目ヨリ北ノ方山アリ
　　山道

小坂村堺目迄
那岳呂山迄
小口谷の内
大山村堺迄
谷川向
一小坂村　西向　前の禁山
後ハ妙法山
芝生下り
口谷川村堺目迄
妙法山迄
平地村堺目ニ
谷川向
一平地村　南向　前ハ禁山
後ハ妙法山
芝生下分
小坂村堺目ニ
拾五町　山道
三拾三町　山道
壱里雲取のなだ
家数三拾六軒　小家共
弐拾町　山ニ
拾三町計ハ石山ニ
拾町　山ニ
家数五拾軒　小家共
七町ハ石山ニ

妙法山迄
井関村境迄
古田組の内
大井村堺目迄
拾弐町ハ石山ニ
弐拾町　山ニ
壱里拾五町　山道

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

相野谷高岡村旧家（相野補宜）

樫本茂兵衛田記類抜抄

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

紀伊国熊野神宮神系三嶺縁譜

天照太神之御子天神穂耳尊思義神妹拷幡千々姫ヲムクヲ
妃トシ饒速日尊ヲ生ム饒速日尊天道日尊ヲムクヲ妃トメ
天香山命ヲ生ム香山尊一名ハ手栗彦命又ハ高倉下命モ
云ヘ香山命御祖(オヤ)天孫尊ニ従ヲ天ヨリ下リ紀伊国熊野邑
ニ坐スト云フ香山命静霊ヲムクヲ献ル於天孫天孫得剣目(ミ)
(イミアタタシ)咸稽(タタシ)嘉高高倉下庭(ニハ)待臣云々
高倉下命ハ異妹穂屋姫命ヲムクヲ妻トシ天村雲命ヲ生ム
此後裔大屋嶋子命ヨリ御鎮座秘記云人皇十代崇神天皇
六十五年(トシ)行幸熊野(ノ)神邑ニ(ヲ)時(ニ)廻路嶮難国霊日女神一形(ヒトカタ)
手持(テニ)水晶玉(タマ)一形手持(テニ)玉鈴(タマスズ)柄(カラ)又一形手拆(テニ)弦(ツル)板箭(ヤ)諸羽(モロハ)

取集其柄是降伏荒邪鬼縁也熊野大屋嶋于命ヲシテ祀部臣トナシ玉ヒ賜三種神器彼其処ヲ尋求ヲ為ニ尸葉之神所ニ是花部等掌来祭祉也

崇神帝熊野邑ニ行幸之時道嶮難ヲ凌キ幸アラシメン為国之神魂ノ神荒邪鬼ヲ鎮メ玉ヒラ竟ニ高倉下孫神民部之祖大屋嶋于ニ勅ヲ玉ヒ彼霊器ヲ授ケ祈道ニ臣トナサシメ玉フ大屋嶋于命則三種之霊器ヲ以テ祠霊ヲ定ム人今牛鼻神社是也後神花部之氏ニ彼木晶之珠器ヲ祭アゲテ宇井氏ノ紋トス○是玉器也世誤ヲ石餅ト云玉ノ鈴ヲ以テ祭アゲテ鈴木氏ノ紋トス榊ニ榜ニ鈴ヲ繋諸羽古葉ニテヲ刻クヲ授其柄ヲ取テ之ヲ以テ柄本氏之紋トス古葉一本ニ真俊館前ニ榎ノ喬木有リ人呼榎本ト号ス後世倣之熊野三党是ナリ

宇井基成

三党氏祖榎本真俊

鈴木基行

榎本氏系圖

大屋嶋于之男榎本氏之祖本来相野之郷ヲ采地トス真俊ニ新宮社家系譜有之古事同之

子英包ニテ稚頭武者祖行上人長寛長着長宣ノ諸孫

鳥飼

真俊

英能

鳥勝

ニヲ榎本宇井鈴木ノ祖トセリ

穂積由緒

崇神帝岐之熊野荒邪鬼征幸之時人馬嶮難ニ倦ム于時大屋嶋于来領摂津郷自是此郷号穂積郷ニ献之厳慮ニ依ヲ穂積之姓ヲ玉ヒ稲穂ヲ以テ紋トス然

レハ稲穂ニ三葉之紋ヲ用ヒ今三葉ノ祖ノ紋ヲ用ヒテ鈴木之紋ニ限ル事又隨意ナラン歟且訛ルモノ歟

右三葉之神系并穂積之由緒雖為家之秘記深需求之間以同姓之縁寫與者也

延享三丙寅臘月下浣

高岡
極本善兵衛殿

檜本真澄
写之

覺

白知一宮一学匠　無双山法性世之傳ハ神代元日本元始ハ傳書雖有之何モ依其一利有権言之法元根本宮と元神宮ヲ本社不定宮大工白為法神宮四社目ハ積ホ宮社ヲ又本宮四社目ハ積ホ宮社ヲ又本宮とり上申候事ニ候

一新屋殿　同屋數本廣寺也

一矢倉殿　同屋矢倉大明神の南の方に畑有り島に作り也

此人下り舟道者舟壹艘に錢百文完眾慶長の比が清水坊へ頼て家僧と成ル

一瀧本殿　同屋數ハ矢口孝四郎

一簗嶋殿　同屋數東仙寺也

其時節人口利して上座成ル

一芝坊殿　同屋數東岩兵衛所也

一中嶋殿　同屋數永田牛之助所也

一吉崎殿　同屋數不知外衆共ニ

熊野年代記ハ慶長三年戌ノ年ニ大勝屋數五軒衆共ニ下ル

又慶永三年芝坊定長座數左宮崎ノ舞ヲ年代記ニ申聞トアリ

熊野年代記別当正法運僧ヨリ宮崎芸能ヲ勤ムトアリ

此八人ニ内壹人外衆有ト―

右房州ハ七人ニ内ヨリてそかさ成人衆ヲ朝暮心中ヨ新吉ハ本ノ熊野悠地ヲ申請守護と可成ト―ヨて彼集浄坊ヲ

ハ太閤ヨ御前ヨて房州存寄ニ事一々申上舟上追附房州と大坂へ罷登熊野地ヲ不残申請帰国致従上綱衆ヲ被召寄被申渡候次第各々へ直段ヨ可申渡也熊野悠地不残申請参候何ヲ自今以後其品ヨ相随ひ可被申候哉但し又其儀ニつとふ―く被存候ハヽいろ様共分別次第ニ可被致と御談ヨ急度被申渡候雲ニ何ヲ當感―て暫く茶一居らるヽ也右ニ内六人先ヨ覧ヨ上請別幡下罷成候中ハヽヲ新屋殿壹人同心無之ヨヽ堺内房州ノ相談迫合有之由

一校本又七　是高岡村出ヽ者
一與　是ハ南橋杖ヽ者

暑記寫（上下節抄）

明月記　定家卿　云建仁元年八月九日南山御共事已有催面目過分但低弱無為方為之如何御共人内府大理仲経卿公卿三人殿上人七人係家芝家陰清親兼長等朝臣也信有雅云々皆以清撰近臣也倍骨獨相交爭不自愛手同卿別記云此供奉世々善縁也奉公之中殊運令然感海難禁御共人内有春宮權大夫（宗頼在私此非供奉）右衛門督宰相中將（公経三位仲経大貳能光三位中將（通光）殿上人係家子陰清定通忠経有雅通方上北面大略皆悉也下北面又清撰在此中面目還多恐定有吹毛之心歟

明月記共此記供奉人相違故再載之

九日天晴

朝出之間遅之間已於王子御前有御経供養等云々雖參白拍子之間雜人多之隔無路殆不能參逐雲攀昇藤代坂（五騎王子有相撲等云ヽ）道崔嵬殆有恐又眺望遠海非無興堺下王子次參橘下王子次參野老坂王子次參一壹王子次昇蕪坂參ト山下王子又崔嵬次參山口王子次又書養所（告原云々過次參入小栗次參糸我王子又凌嶮嵓昇糸我山下山之後參サカサマ王子（不過何有此名云ヽ）次又過今日御宿三四町許入小栗宿所有上雖有

例假此家主依離事入坐呼文義朝臣（男六位）先是又依文義朝臣男宿
呼先入小宅之間件宅有悼之由聞仕之仍騎出入坐呼于先陸
如事不（後称父喪七
悼之由　十日許云々）雖然臨時ヲカキヽ以景義令稽了又
依有呼思案潮コリカノ是陰時事也此湯津入江邊松原之
勝形奇特也家長送題二首詠吟窮居之間甚無術秉燭以後
又着去帽于如一夜參上小時被召入蔀内又依仰講師了退
出

藤代王于和詩會建仁元年十月九日

（歟ハ早玉神社萬什ニ在リ故ニ略之）

十四日

天明出山中宿參重黙王于次參大坂本王子次起山了入近
小野氏之重黙宅
晝事

露宿呼于時日出後也自瀧尻至于此呼崖嵓陵他日眩轉魂悦ニ昨
日渡河已諦指仍偏乘輿此宿呼近御午時許御幸告訖即給
題只今披講長房朝臣注送之驚即持參辭事也供御之間云
云即退出秉燭以後又參上講錄阿闍梨依召參候蔀外讀經
良久有召參御前又讀上了退出于時刻乘輿出道綾河即參近
露王于次比曾原次維　次中河次石神夜中着湯河宿呼向路
生嵓夜有恐甚有恐寒風無為方有非時水
歟尻王于和詩會建仁元年十月十四日

（歟ハ同前略之）

（以下略）

憲清僧正熊野山入堂記（節抄）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

十四日天晴

今日着湯河了

一旦栄花任運命四恩覺束挺精祈

憲淳

熊野路次瀧尻宿即事

藤原道憲

幽奇靈嶽号熊野、一起永無塵垢襟、月下尚前膜拜思、當来現
世利生心、石門松老攀煙遇、叢戸泉寒叩凍氷、本地便知西土
摂一本作姓
生、毎懐列樔淺離禁

秋蓮禅

乘舟到新宮湊

渡口宿時望地形、幽奇旁似畫圖屏、汀塘山遠漠村白、松樾山
高鳥路青、歸落老年抛劇務、行舟曉燭抽殘星、一留一去春天
旅、霞色潮聲入視聽、

御神供之次第

一御殿　御着前ニ置之次ニ御汁御菜御盛物御菓子已下
何程ニ而共次第ニ備之次ニ御酒ヲ取如奉酌之散供散米
有祝詞讀終之御酒御前ヘ備之一拝シテ後先酒ヲ取卸
シ次ニ御神供ヲ取御飯ヲ後ニ下シ奉ルヨリ其
後本座ニ帰リ一拝シテ退ベシ

注連之調作

一左縄合ヒ合ヒ也口壹尺許ひ合て次ニ藁のもとを揃て
七筋出之長サ壹尺寸寸ヲ表ニ六寸ヲ表ニ三寸太サモ大小

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04032

分別ベレ蓁ヲ出ス次ニ六寸間ヲ置テ紙ヲ四手七筋蓁ヘ長サニ准ノ長短有四手ニ切ヽ等之上ヨリ七五三此四手ヨリ六寸間ヲ置テ蓁五筋出之此蓁ヨリ六寸間ヲ置テ四手五筋ヲ、ミ又六寸置テ蓁三筋又六寸置テ四手三筋又六寸置テ蓁二筋又六寸置テ四手就筋此後ハ以ノ指長ク共ニ六寸宛間ヲ置テワラトシテト二筋宛ヲ剪

借用仕金子之麦

一歩判金六拾両ハ

右ハ此度於南部領筋被仰付候處、文度金御座候故爲

元金也

脚ヲ以借用仕処実正明白御座候利足之義ハ、壹割ニ仕来ル辰年三月廿日迄ニ元利とも無相違急度御返済可仕候

右返済之一ヶ條少ニてモ相違仕候ハヽ、日本國中大小神祇別而ハ熊野太権現之可蒙御罰者也仍而神文如件

借り主

右垣午之助㊞

享保訴指年

卯十月

楼本苔兵衛様

（裏ニ午王ヲ印セリ）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

天保五年午十月五日若山御役人御改

極本忠末　　若年寄衛門妹弟一人
若年寄衛門妹弟二人　忠満
忠正　　若年寄衛門妹弟二人
若年寄衛門弟子一人　忠高
忠信

天保五年午十月五日

勢田村大庄屋赤井半兵衛屋敷ニ而御泊ル極本若年寄衛門妹弟二人
ニ付参殺し

古書物極本半井称木三冊まき三本書物壹冊若山御役人
衆御改ニ通役人衆借し可申様被仰聞則若山持参殺し改

御役人衆御名前
御手筒頭　仁井田増一郎　本居弥四郎　加納兵部
古三人御役人衆

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

色川村清水家由緒書

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

（表題）

執御尋書上色川悠三郎一

一遠祖小松三位右近衛中将兼伊豫守維盛元暦元年三月
下旬二十七歳ニ而、讃岐八島之戦場を出阿波国結城浦
ゟ紀州和歌浦江渡、野川ゟ高野山三山江参詣し、那智之
汁山鳴嶋ニ而入水と偽り、太地木之浦ゟり太田之郷江
入、一宿ゟ一夜村と号と言傳、夫ゟ中之川村へ移り、漸
ク傍ニ有ル草庵ニ住ひ、響庵と改、休息して身の落着を
頼、夫ゟ此家を小松左衛門と為号、太刀一腰を與、元文二
田大祭吉代々相続ル、納ル 巳年太
士五常を離るゝ其の故台瀬と申所へ三年隠居是を藤
綱之要害と言、其後大野村ニ居住ル、同所木口村栄娘

讃岐ヘ高本ニ讃岐ノ有
原本ニ讃州トアラン

辜と一て男子二人生れ、嫡子清水権太郎盛廣二男母方
を續て永口小治郎盛安と号し、雑掌堺を無知人、五代孫
色川左兵衛盛氏、其子盛忠と相續之處、
後醍醐天皇御宇、尊雲法親王管軍被打破、十津川熊野尾
入給時、盛氏一族を催し、大河内行宮奉加勢、奉抽軍忠、尚
詔て、勅書令旨并錦御旗一
流之被補法勝寺管領者賜之畢、是元弘、建武、延元興國之
間也、
右勅書等、今も、庶流清水角左衛方、持置其實を所持仕
候、
一、中興元祖色川三九郎盛實、同苗淨珍入道之男子二而、

熊野十人士其一人ニて、押領知色川七ヶ村、小森川、田川、
赤木小西、高田三ヶ村、小口谷八ヶ村、枝郷ニ上村數廿八
ヶ村、收納仕候處、
豊臣太閤御代、御檢地被仰付、廿八ヶ村高七百廿四石被
成下、御折紙賜之、御奉公相勤申候、
一、文祿元年、秀吉公高麗陣之前々年ゟ、籐堂靱負守殿、
當奉行ニ於新宮、兵船百艘為御造作第、三九郎新宮ニ相詰
候樣被仰付、又自分之船一般支度仕候樣被仰付、則
出来、明神丸と名付、七百廿四石之軍役を以、侍分三十六
人、諸差物三拾六本相調、首尾能御供仕、
秀吉公、御目見仕、其後伏見、數度出仕、相勤、又一通之

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

御書賜之候、

一慶長五年、新宮城内安房守氏吉ヶ、石田治部少輔三成ニ謀叛之内通仍有之、房州為討手、雑賀孫一郎、宥田石垣氏、日高玉置氏、安宅、周参見小山氏、古座小山吉川在色川一族従是十人社仰付、新宮、可押等之處宥田石垣氏、房州と仍縁者、不及合戦、密ニ切腹為殺可申ヶ、評議區ニ之處、其夜房州逐電仕候ニ付、十人之者共、手ヶ矢悪敷易被ニ仰付候、

一同六年、津地左京太夫殿領知罷成、色川ヶ御内苗孫左衛門高勝、勝家老八百石知行呼ニ相成候ニ付、三九郎存念色川ヶ由緒之地被官等親深く、従是難去ニ付共、旧領申請、時節可相待ヶ、孫左衛門、家老谷味助ニ指図、新宮百石ニ之大坂御陣之砌、孫左衛門為見送、豊州廣島迄参、追相詰候、其後国替ニ付孫左衛門為見送、豊州廣島迄参、罷帰候ニ、

一前誓院様、御奉公之義、全誓院様迄、奉類候處、由緒御尋ニ付、其節藤堂和泉寺ヶ廃ニ候ニ付、和泉寺殿ヘ相達候處、御対面被成下、委細言上仕候處、御承知被成下、御意ニ一旦共迫御尋被下、甘上御料理等被下、旅宿ヘ罷帰候ヶ翌日御使者給、罷在候處、摘御意之上、御暇見ニ、

左大閣、御奉公相勤候ニ付、兵介
頼宣公、身體痛候ハヽ、公儀晴ヲ除、其心得ニ而可相
勤旨被　仰出、若又乱気ニ而相滞不申候ハヽ、重石掛ケ
津迄可参旨被　仰出、高藩陣犬坂ニ来相勤候旨委細書状
賜之、若山、罷越、
一、紀州藩江戸表ニ而新宮御與力明知百五十石被
　召抱、色川領知仕候、
一、二代目三九郎盛信、崇誉相違被　仰付、中筋村領知仕、
　其後割替之節、表海、和田村ニ而領知被　仰付、寛文三卯
　年正月、六十三才ニ而病死仕候、
一、三代目三九郎盛正、寛文二寅年五月、初名九兵衛と申、崇

誉無相違被下置候處、延宝八年申酉八月、四十二歳ニ而
病死仕候、兼ニ不行跡ニ付、跡御潰被成候、惣領三之助父
と同日、病死仕、二男源三郎若山親類方ニ有之候ニ付、娘
二人江家財被下置、三九郎姉聲川合、寿左衛門と申者江
引取候様被　仰付候、
一、四代源三郎盛高、初名三九郎と申、親病
死之節、若山親類方ニ罷在候を、色川角太夫并一類共御與
力衆迄、期日数許仕候得共、無御同意ニ付、跡ニ罷越元禄二年巳六月、
大坂ニ而浪人立罷在、其後新宮ニ罷越、
病死仕候、
一、五代清水盛蔭維成、聲川合寿左衛門悴三九郎甥ニ而、三

九郎娘妻合為仕、旧苗清水と改、縁相続仕、其後御奉公手
引方御座候時共、実弱、御座候、何仕官を不望、一生農業
渡世仕、享保十年巳五月、病死仕ル、
一、大叶色川沢右衛門盛房、享保初年之頃清水源重郎と申、
御足軽被召出、江戸表へ罷下相勤候内、本苗色川と相
改、享保十四年酉五月、御在所為勤被仰付、同八年亥十二月病気ニ
付、御暇被下、同十年乙丑三月、御帰国被仰付、為御休被下、同五
月、病死仕候、
一、七代楚平邦備実因岳右丈二男傳蔵と申、宝暦五未十
二月御足軽被召出、安永五申十月江戸表へ引越被

仰付、御徒士目附役迄相勤候、寛政元酉十二月、為御在所へ、御役
御免、同十年午五月、御足軽へ帰参被仰付、文化二丑正
月、病願為御休被成下、同五辰八月、病死仕候、
一、八代松蔵、北川林助末子ニ而御座候、楚平奉願養子ニ
仰付、文化二丑正月、御足軽被召出、同十二亥六月、御用
部屋書役被仰付、文政元寅正月、御為札懸被仰付、御
役料金弐歩被下置、当巳迄十六ヶ年相勤申候、
右之通申興、元祖より私迄八代ニ候得共、実ハ不相勤申候ハヽ上
色川惣二郎　印

清水ノ商城治ノ川村
役場ノ書類ノ五十年前
ヨリ保存ノ書ノ名称物
ヨリ作成ノ年ノ

文政三年辰四月

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

神人名再遊及妙心寺由来書

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

神苑一再造本願妙心尼寺寶暦十一年二月智光元寫し置一表題）

夫天地ひらけそーまヨーわ国吉台の等とり仕肆福伊紫
井の二柱及び天照皇太神鵜の山ふきあはせの葦に西
つまて惣て十二代并に八百萬の神達跡を熊野に垂たま
ふ蓋神花ハ熊野に神降まーまた妻け一め代地多り故に
熊野根本大権現と稱奉る事世にいち志ーー然といへと
も神託霊記こてーく磨失ーて伝ふ物多く
悲む所ーー手悲歎のあまり神の思測至ーつきをけ多神
智のおりひかくきをおろんまう男法と称る事
といへとり相傳る縁起舊記の意を集て新ーに志ー

てそなつて後世の亀鑑と志尊の願望をぬきんでてまつる一助なり

當山熊ヶ岳窟ヶ岸に熊野の權現影向ましまして
神の寶劍をおさめたまふ靈地に熊野の根本と云又說いはく天竺金剛寶山の片破地主に降て一拳と成則此山なりといつゝおる時に寶劍光りを放て世に神德の嚴然なる事をあらはし一人に
佛敵の寶鑰をあらはし一人怨怒の相をあらはして人に
といふ事をあらはし天武帝持統天皇恐御宇白鳳朱鳥の間に神形上人出生して此山に登り社殿を建立し佛閣を造營して若社威を崇め佛德をあふぎ刎や大行捨身此願を

發し勤行して後世に傳ふ往來遺跡相續をと云々然とも
世と興廢盛衰ありて繞に一燈一花を捧るのみなり時と
千貫比丘尼といふ者來て社殿を再興し佛閣を修造して
基法益殷なり又勢州大杉谷より壹人來て當山大行捨身
と法をはとめといへり此千貫比丘尼より寺に至て又數
百年を規模をたゝすと社殿佛閣ともとく大破にたゝ
故に天下國家勸進奉加に依て再興をへき大願を發し侍
る處又神佐の加藤佛智の寶鑰を仰き古願滿足をもて大永
年中に再興半過といへとも未だ功
又勸進奉加して其功
畢

半願如順尼敬白

于時享保四年八月吉日

慶安二己丑年霜月吉日

熊野根本神蔵大権現

再造本願妙心寺智策

妙心寺由来

一慈覚大師熊野三山御巡山神蔵奉籠法華経御供養依之
當寺之内法華経供養之石于今庭前ニ御座候
一人王七拾四代之御帝鳥羽院天仁ニ戊丑秋七月熊野三山
御幸供奉僧正之内永信元當寺之住持福泉坊後見仕候
一元永ハ甲申同帝熊野三山御幸當寺ニ被為入御永信元大
内迫供奉仕候
一大治三ハ甲申白河院當寺ニ御籠之節神妙ニ御霊夢ヲ
蒙させ給ひ依之當寺御造営
一本堂ニ神蔵受法明王御請仕候并由良開山法燈国師妙
心寺ニ暫被休御入候
法燈国師木像一躰
同御母公木像一躰
右ニ国師之御自作ニ申傳候外ニ
永信元木像一躰

妙順尼木像一躰

一安永元年正月十一日神倉新始妙心寺と金蔵坊隔年出仕祝儀相勤来候本堂修営之主役、ゟ御座候自力奉加にかよひかさき大破其節ハ若山　殿様ゟ奉願上来候

一曼陀羅堂一宇之本願ハ三学坊ニ而御座候神倉権の本願ハ宝積院ニ而御座候朝鮮無帯ニ候得ハ享保年中神倉大破修営の比とり本願を申受稱ニ来候を以修験道ニ頼勝無罣右候

一居屋敷之儀ハ御寄進三百五拾石之内いつきり配當仕罷有候

一天正十六年子十月十六日神倉御交上本山方修験道時之一和尚樂浄坊當山方修験妙心寺祐信舎蔵坊九州勧進奉被御免九ヶ国巡行仕再造仕候依之再造本願と申候

一宗門之儀ハ従前ゝ真言宗ニ而御座候人別御改之後ハ毎年頭所庵主ゟ相来候古之通書留申傳にて書上ヶ申候従昔右修験相勤候哉四年ニ本願勝相兼罣在候御吟味之胡乱者ハ一人も無御座候萬一御法度之者隠賢後日相知レ申候ハヽ一人ニ而も被仰付候如前ニ之法脉血脉相續仕尚又弟子等至迄生国吟味仕慥成者賢受可申候為後日仍如件

神倉再造本願

元和八壬戌七月

熊野領地御觸兒

若山御奉行

黒柳奇覺様

古之通吟味仕候上書上候絵図者書人ニ無御座候仍之

與判仕差上候

同

秋心寺中古人

金蓮坊　仙澄

熊野新宮

本願所

行尊印

新宮御座書寫

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

新宮御壁書寫　元禄十三年辰九月　相野谷組

五、二月旦那被仰越候御状之控書

淡人元文之儀

一、常ニ被仰付候通、宗門人并出家道心者何方ゟ来候共、其所之庄屋年寄出合、其者生国在所、親類其外萬端慥ニ致吟味、其品ニ寄、右方へ急度可申届候、若シ右之輩来り候ニ油断仕、等閑不仕候ハヽ、又ハ不申遣候ハヽ、庄屋年寄曲事ニ可申付事

一、吉利支丹宗門之儀、頓而無油断相改、不審成者於有之ハヽ、注進可仕事

1649
承応

新宮ヘ注進可仕事

古之青油断仕候歟無懈怠候ハヽ其方ゟ在々目附ゟ遣閑可
申候間急度ハ百姓已下迄ニ可申付候已上

慶安貳年丑三月五日

岩出九左衛門
平岩助右衛門

1649

写

一村ニ、来ル有付者并下人下女等至迄ニ国所ゟ左のり
候共慥成請人無之候ハヽ抱置甲間敷候請人慥ニ有之抱
置候ハヽ代官、理ル可申候之旨堅村々ニ可被仰付候以
上

慶安貳年丑八月十二日

平岩助右衛門

覚

一惣之田畑ニ念入耕作仕付可申候若田畑荒相ニ致無念
仕候者有之ハヽ身ヲ過料ニ取ル可申付候

一山中筋浦方なとハかせき第一といたし耕作荒相仕所
ゟ可有之候ハヽ付令吟味田畑ニ念ヲ入耕作仕付ニ取里数
其遠閑ニハ萬ハかせきなく可仕事

一在々公事等之砌双方相手并大庄屋小庄やより外雑為
聞于兎角新吉ハ参候事堅無用但證拠人ハ各別付籠舎

岩出九左衛門

之旨信兄舞獨以停止ノ事

一大左屋共組下村々分付之時隨分令吟味毛頭無依怙贔
負合ノ入可申候其上村々ヘ細々見廻万事無油斷様可
申付候前々ノ如仰付諸役申付候時誓各可申付事

一兵粮之時分ハ小百姓共ニ萬事具ニ申聞ヲ相談之上可相
定候百姓共諸事ヲニテ壱無之様可仕事

一古之通御意之旨御老衆被仰渡候間於無油斷百姓共ニも可申
付候於相背ハ可為曲事者也

明暦三年酉四月廿九日

黒村壱右衛門
治田　茅兵衛

覺

一在ニ〻夜中火之番同火事之時早ニ火本ヘ懸付候事
前々ヨリ往来候ホトク弥厳可相勤候然ハ此頃ハヤ
乃至日中火事出来相改候ニ百姓之かせき出家明置又
ハ跡幼少之子供有之火事出来候自今以後ハ在家依多
少ニ一人成共當番ヲ定ヘし若せき出候者之家々日中之間見
廻火事無之様ニ可仕候但毎年十月ヨリ明ル二月中迄如此可
相勤候若番之者油斷仕候ハヽ大庄屋小庄屋吟味之上渋
田弥兵衛脇田太郎右衛門方ヘ可申遣候

寛治元年戌極月廿二日

今度渡奇六郎右衛門田付吉兵衛支配所へ女色并酒宴
音物請振舞なと二参其上私方有之候右之依不面御仕置
被仰付就夫右両人之その二求入候との女色之宿有信見
舞なと仕候大庄屋小庄屋并寺僧小百姓共夫々二被仰付
候処已後相背候もの有之候ハヽ、急度御仕置可被仰付候
何も為心得申聞候以上

延寶六年午九月十八日

一筆申入候然ハ在々薗改、付歩行目付衆并、遣候庄屋
共之儀ニ不及申二小百姓迄も逗留いたし罷在候由其上めし
らへ候へハ有なと申出候由承候ニ付歩行目付衆ニ
寄なと之儀不及申其外之衆在々へ参候共小百姓之儀不
申及年寄百姓ニても右之ごとく海者なと一色ニ召出申候
用ニ可仕候其上めしらへ候共海者なと出申候
ら酒なと出し候ハヽ其組之大庄屋并小庄屋方へ過料可
申付候間其心得可有之候、郡奉行衆之儀ハ前々ゟ仕来通
心得可申候

一乗物かき申人足数多出し申由承候ハヽ大形々ゟ左様ニ可有
之候得共自今以後乗物かき三人ゟ四人ゟ出し可申候但
路次悪敷所ハ見合可仕候以上

寛文五年ニ 三月十七日

前田惣兵衛

御領分
大庄屋中

覚

一常々被仰付候通宗人并出家道心者何方より来候共其所之
在屋手等出合其者之志国俗生諸親類其外万端堅被吟味
其品具ニ此方へ急度可申届若右之輩更ニ油断仕等閑
不仕候歟又ハ等閑被候ハヽ其様子此方迄不申達候ハヽ
在屋手等可為曲事然一夜之旅人ニても心を付随分念を
入可申事
一吉利支丹宗門御法度之義 公儀を度々被仰出候通堅

1665 寛文五年三月

相守可申候

中根善右衛門殿

前田将兵衛

覚

一他国、貴候ゟの来有之ハ其村中とゝて身元ヲ糺
ゟハ、親ヲ遣早ゝよび度可申候他御入国以前之儀ニ不
苦事
一他国、かよひ参商人諸職人猶師船ニ至迄ヲ先ニ不居付様ニ
急度穿鑿可仕候事不及申候ニ他国ニ越年不仕

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04032

様可致候若年より内ゝ不慶ニ
奉行所ゝ可相理事
一御公国之内ゝ町人百姓等ゟ
他郷ゟ有付候ても不苦候仕来ニ
人ゟ呉付候共其所之代官ゟ人ゟ可相理事
辰三月

朱領ゟ所不明

覺

一従前々申渡候壹ケ三歳米之義年々無滞納所仕候様申
付候處近年ゟ滞未進ニ候所ゟ難不作之年田地荒れ無之ゟ
ゟ歟ゟ有之事ニ候へゟ自今ゟ本計未進有之候共壹歩三

調之下於所法

歳米無滞取立可申候若御代官ゟ右納置候半本計筋ゟ
取立被申候ゟ共書附ヲ以相断可申候其上承引無之候
ゟ御役所ゟ追相達可申候向後壹歩三歳米未進仕来候
ゟ當躰之者可為不調候ゟ上
庚午三月十八日

大庄谷組
樽本孫兵衛殿

公川彦八
当比喜平

覺

一風雨痛ケ山川崩所等諸大損人ケ馬死船并
家損ゟ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一告付痛
一旱損水損
右之痛事外、ゝ田畑之義ニ付申立候者在之候ゝ早々
遂吟味大積書付出可申候先年ゟ断絶引ニ付度々申付候
得共遅々申ニ付此度書附ヲ以申渡候若紛ゟ痛ゝ在之書
附出シ候迄ハ延引可申ニ存候之自今ハ先達ゟ相断買無
油断相改早々可申出候本法越之所下ゝゟ常ゝ能可申渡
候此上延引申候ゝ可為越度者也

元禄四年未八月

相地奉行 柴地 半太夫
鈴木典三兵衛
大庄屋共

大庄屋共組下之義可相心得覚

一諸法度之儀ハ勿論 公儀御用筋ハ方御用無滞様ニ
々庄屋并小百姓共ニ可申聞事
一壹年ニ両度村〳〵相廻両作見分仕田畑やゝ〳〵等無ニ
仕候ゝ其村之庄屋ニ可申聞候其外ニ存寄ニ候ゝ可申聞
事
一春冬之普請場所ハ勿論風水等ニ而損ニ候場所ハ早速遂見
分候上其分ニ而難捨置所ハ其通相断又ハ連々ヲ以仕候
ゟゝ不苦所ハ丁簡仕委細ニ可申出候通五ツ三

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一之義ヶ其作人ヨ可申付事但田畑多所持申候百姓ニ
了簡仕候ハヽ曽請仕可然儀於方ニ申遣ヽ可申事
一新田可成所ハ勿論竹木植可歟所ヶ又ハ茶園等仕宜所
見ル仕存寄候ヶ其所之支配ニ可申付事
一及満候様ニ百姓有之節ハ納所方并家職之様子委細吟
味之上若不心得ヶ痛申候ハヽ家職ヨリ外ニ在之候ヶ存寄申付
家職ヨリ外ニ可仕事
一当米納所之儀未進在之百姓共在屋手前面付帳寄ヽ
小百姓手前指引無之様ニ家職方并御代官中相定出候
時分大庄屋手前之面付帳相違無之候ヶ判形可仕事

一物成上納筋滞金在之浦方山方当々ニ可ヶ仕家職ヨリ
上納仕候様第一其所之庄屋可申付事
右七ヶ條之趣紅下之候候ハヽ第々油断仕間敷候得共為
諸事心付痛申候百姓出来不申様ニ可仕者也

文禄四年三月

村々庄屋共可心得覚

一庭々申渡候通縁礼等之時分ヶ酒肴等相止成程軽可致
行之候
一郡奉行御代官勘定役一汁二菜浦方ニヶ小魚類又ハ干
魚ニヶ并和物類何ヶ軽品可用候山中之在々ニヶ其所

相應之軽物生魚等一切無用可仕候仕川筋之儀々其砌
有合候ハヽ軽キ川魚不苦候并右仕之もの江和物之類又ハ
香物之類ニ而一菜可限候
一臨時之御用ニ而知行分在中へ参候時分上下とも奉行御
代官可為同前候惣而一切出入中間数候無事ニ可為無
用候
一三軽并之外ニ而魚和物何ニ而も一菜
一御奉行御代官在中へ参候節乗物人足四人可限此共難
申聞数候其外知行分在中へ参候節御奉行可為同前
右之趣先年ゟ申触候ヘ共近年ゟ不分明ニ有姓共猶申候間

紅下左屋共ニ肩ニ可申付旨御年寄申渡候間諸事無
相違様ニ急度可被申付候以上

十月七日

相良宮内
橋本安兵衛殿

山口文左衛
宮川彦八

覚

一御奉行御代官御勘定方ゟ見之刻又ハ路時之御用ニ付
参候刻朝夕ニ之外度等如前ニ之九寸五分ニ而置可申候且又
御奉行御勘定方ゟ見之節又ハ山見分之刻書之度毎ニ

今迄之通可仕候其外臨時之御用ニ参候刻書支度仕候ハヽ
味程軽仕候ニ而ハ又手形取置百姓之ミニ而造作懸不申様ニ可
仕候

一山出入等有之節為見分役人参候刻ハ前々之通書支度
可仕候其外臨時之御用之節書支度仕候ハヽ是又手形取置
可申候尤朝夕頃ハ今迄之通手形取置可申候附御代官
在中扶持方之義八月より霜月迄手形取置可申候極月
以後借候之内ハ百姓可為賄候其外不時御用ニ参候刻
尤手形取置可申候

一ニ軽在中借候又ハ臨時之御用ニ付遣候節朝夕之支度
ハ前々之通可仕候但前方書附出シ候通一汁一菜不可
過晝之度之義ハ一圖無料可仕候若時ニ寄晝支度不仕候
ハヽ不叶節ハ仕断其意ニ而受手形取置可申候猶又在前寄等
遣候刻之義ハ如前々之可仕候附南筋東筋きりたゝん
改遣候ニ軽中間ハ振籠付渡シ遣候得共右振籠付受取
可申候

一和勘場又ハ有馬塔迄送り者有之遣候刻一箱ニ仕候ハヽ朝
夕ハ右之通ニ而ハ不時参合支度不仕候ニ付不罷成
節ハ湯漬等ニ而給申候ハヽ可有之候ニ付又手形取置可申
候

一在中ニ遣候諸役人ハ仕之下々ニ軽中間等草履ニ而ハ
不相応之儀ニ付可遣候但又ハ軽中間江戸和御

面谷望之誤

山ヽ飛脚遣候節道筋之在々ゟ通掛ゟ之度毎給捨候之
由相聞、右飛脚候ハヽ板箱鉄杖持方遣し候間自今其者ゟ
支度之代米可申候
右ヶ條之趣御領分百姓共ヽ為に相得させ可申之旨御手寄申
被仰渡候間在々庄屋共ヽ申渡尤米置候杖持方手形之面取
定、指出させ可被申候右之外山奉行等遣し候刻ゟ同前ニ可
相心得者也

酉極月

山口文左衛
笠川喜八
榎本弥兵衛殿

覚

一大庄屋並妻子紬縮迄小庄屋共ヽ地布八諸之外不罷成其外紬類着用之者ゟ外帯襟
頭布とゝ無用、可仕候、木綿ゟり外紬縮之類木
うーふくめん頭巾襟帯共堅無用仕木綿地布八　着可
仕候若相背申者有之候ハヽ其着類米上ヽ申上糺其品ニ可申
付事付ゟ庄頭紬縮ゟ外之衣類一切着被させ申間敷
候

一地布八　ふゝ地紅粉地桔梗黒紅粉縦縞庶子並庄屋涼
切無用ニ可仕候ヽ木綿麻子ゟい紋ハ不苦附形等ゟらし
内染入候義ゟ無用之事

八之下字不明候
原ハ下同
八誤ノ場中カ如ク、ゟ左
ノ如ク有ゟ

甲三十破魔弓蝦

一惣て女子一帯木綿麻之外無用可仕候但紅粉紫染申間敷候
尤紅粉紫染申間敷候
一右仕之女木綿地布八　之外無用可仕絹紬之類ニて帯
禁ず堅無用候附蒔繪ニつかうけさ一樣無用之事
一端午之幟布毛綿ニ相止向後紙を可用幟之數二本甲冑
例鑓壱本長刀一振立させ申樣ニと諸士方江被仰付候但
八歳以上ニて立申事不苦成候此趣受於町中ニ弥悼ニ申
樣ニと町方へ申觸候止ニて在中ニ而ハ尚以悼相心得可申候且
又ひなニ可用ニ付甲冑破魔弓ひいなニ羽子板松之竒物取
替一雛為親類無用ニ可致候付のかりハ男子何人候共
右之數より多ニ而數事
一婚禮之諸色輕ク諸士方へ被仰付候其外祝言等萬事
隨分輕ク執行可仕事
一他領之者田畑山林永代賣仕間數候若當分之質物又ハ
年賦ニ而山諸渕ニ不賣ニて不叶儀有之候ハヽ大庄屋江相
斷林木共外山渕相せ候儀斷可屆指免候ハヽ右之渕相
仕廻候節是又其方へ可申出事
一惣て他領之者證據ニ而數書物等遣し間數候若先樣ニ
遣ス筈候ハヽ庄屋大庄屋へ相斷指圖次第ニ可仕事
一他領ニ而諸家騙仕旅人一宿之義ハ格別定宿ニ而申於有之
ハ樣子向屆候上大庄屋へ斷可受指圖候其外不慥成者

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一日之儘ニ皆ゝ在申聞數候尤以懇意ニ候ヘ共相互ニ
人馬其趣大在屋ゝ申斷指圖次第ニ可仕事
一往来之旅人ニ可限一宿ニ若二宿共頼申者有之節ハ御法
度之趣申聞候上無據逗留之ニ有之候ハヽ可相斷候大形
之事ニ候ハヽ二宿ハ借ニ申聞數候且又雖為諸商人二宿迄
ハ借シ申聞數候若惡性成ル者ハ前々ゟ參候者逗留仕候
ハヽ在屋ゝ斷其上大在屋ゝ可相達事
一海道筋一宿之雖為旅人不憚成樣ニ支申候ハヽ在屋方相
斷先々在屋方ニも其趣通達可仕候且又海道筋ニ無之村ゝ
及夜陰宿借ニ申度届出候者有之候ハヽ御法度之樣ニ相心得
夜中ハヽ心付翌朝罷出候ハヽ何方ゟ參候哉見届可申事

一御領分ゟ外之ゑのと相高金銀借シ借ゟと仕間數候不
發ニシて不叶家續在之ハ其ニ大在屋ゝ可相斷候ハヽ不
不斷掃除書物等取替ニ申外ニ大在屋相斷指圖次第可仕
候若斷不之内證ゟ示合不埒出来出入取候ハヽ公事之
理非格別其儀語着ハヽ後依其品急度可申付事
一參ル人と見掛候ハヽ其仁躰ニ應禮義相勤有不作法仕間
數候別ニ海道筋之義ニ對旅人ニ過言口論不仕樣常々愼
可申事
一在ゝ祭礼其外祝儀ゟ酒取扱可為無用旨四年ハヽ前ハヽ書
附雖申渡ニ来々之者迫ハヽ申觸不相届候ニ猥ニ取扱
之樣ニ相聞候自今急度酒取扱可為無用ニ百姓ニ至迄堅可

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

相守候共上、ゝ慎不申ヲ以テ於有之ハ、在屋遂吟儀、大庄屋
ゝ可相断事

一他領ゟ参候出家方其寺ゟ参遠留仕候ゝ在屋聞届
候上大庄屋、可相断事総一宿之道心者ゝりといふとも
国所宗旨名迄相尋候ゝ書附大庄屋江可相渡候大庄屋
ゟ程遠村々ゟハ在屋方ゟ書附置一ヶ切、大庄屋ゟ書附可相渡
候寺ゟ参候旅僧ハ其寺ゟ大庄屋当之手形ヲ取候ゟ是又
大庄屋ゟ相渡ゟ可申事

一浦方之義ゟ別ゟ他国者入込有之候ハヽ、候間諸事已
後出入不成様相心得一何事ゟ在屋ゟ可相達事

一御領分之者共他領ゟ罷出候時分在屋、相断候ゟ出可申
事

一他領ゟ諸宗鐘ゟ参候時ハ宗鐘之品等先様ゟ書物等仕義
候ゝ其所之庄屋、相断之上、在所ゟ之度、右之次第大庄屋
ゟ、相達可受指図候ヶ条数義不仕候様ゟ百姓ゟ至迄可
申聞事

一再渡等谷川筋ゟ水出申節再渡定之外棹賃取不申様可
仕候谷川筋其所之人足雇候ゝ相應之賃銀を取少ゟ故
人迷惑不仕様常々可相心得事

右之段々浦方山方共此品々ゟ付常ゟ無油断可被申付候前
ゝ申触候書付之趣尚以ゝ可相守候共其節訐申聞候ゟ相

閙不埒共ニ有之候自今ハ村中寄合之度毎、庄屋立合委細
申渡ニ小百姓ニ至迄能々相守候様ニ可被申閙者也

元禄七年甲八月

相模屋
太地 半左衛
一 鯨本浜 三兵衛

追加

一地侍大庄屋等縁組之節結入之祝義、壱貫三百文ツヽ遣申
筈小庄屋頭立之百姓衆庭一軽ク仕筈

一大庄屋娘嫁付之節自木長持壱棹葛籠壱つ小庄屋ハ加
ろふとの筈之由

一大庄屋小庄屋其外百姓共祝言之節首尾永持申者之外
親類等合ニ従前迄之筈の由

附大庄屋小庄屋娘ゟりといふとニ千百姓之方縁付
参候ハヽ夫々通木綿外ニ一切襟袖縁りニ絹紬
ハ成不申候由千百姓之娘ゟりといふとニ庄屋妻成
候ハヽ紬迄ハ着用之筈

右之通為心得書付差越申候無油断可被申付候以上

元禄十月九日

覧

一在中ゟ庄屋肝煎共方ゟ参候節御役所迄罷出候様ニと先年

申渡候然處近年追々不罷出候由自今ハ無失念罷出候
樣左屆肝煎ハ可申付候
一右之者共於方ハ御奉行中ハ勿論是又相斷申
樣急度可申付候
一三年以前何ヶ心得之ハめ書附御奉行中ヶ被相渡候哉。
ヲ今不心得之趣ヶ有之樣相聞候向後諸事念入絶下差
無油斷可申付候且又近頃御奉行中ヶ被相渡書付之通
弥可相守之候若於後不心得之方ヶ在之候ハ急度可加
吟味之条可得其意候以上

元禄七年甲十月

從藏奉行衆
宮川　彦八

在々浦方町人ハ可申閙事

一何ヶ頼申越有之道理可立候後人共ハ頼不相立事候
ハヽ於度以書付其所之支配人ハ不構大目附共ハ可指出向後
とてヶ支配人手前私曲ヶ有之
御直ニ頼申度事有候ハヽ書附ヲ御目附共迄可指出旨
被仰出候其段支配之所々ハ可相觸者也

甲十一月十日

奉行所

（以下原吉組ニ有之分寫）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一村次御状箱之義も不及申何みても御継之
急次之村、相滞可申事
一村次之御状、印判ゟ有之候ゟ休程急之御用と存無油
断急ゟ可申事
一日御状、印形三ツ有之候ゟ御用、候間総当番之者
ゟ無之候共、作ゟ其儘休程一里先々ゟ可相渡候可申候
一何之村ゟ札番之者ゟ書夜庄屋所ゟ相詰可申事
一村次之和帳付ゟ可申在所ゟ
阿田和村　有馬村
古之有帯ゟ無油断様ゟ申触候得共猶ゟ事今入ゟ百姓共ゟ

可申付候若油断仕滞候ゟ曲事可申付者也

慶安二年丑二月十九日　　子岩助右衛門
　　岩手九右衛門

よらもなし

法度

一酒有衣類在郷、買求候事
一塩之外何ゟゟ買申事
一諸商仁入申事
一新宮、庄屋百姓罷出仁官部奉行ゟ外いつまゟ音信椅上ゟ
　ゟの仕事
一在ゟゟゟ之音信　仕事

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

附、製酒親方、五節句仕事
一常々食事、先米給申事
一當年来年ハ存々賀儀取仕事
一死人きちろた、半親子兄弟之外無用之事
一七日々外迫入申間敷事
一為何祝事在之候共餘大ニめいわく、ゆんるいかおり酒たゝ
ニお免仕事
右ハ世間米高直ニ候得ハ御年貢、油断仕當々之ごとく、相
心得候ハヽ来年ハ餘死可仕候条前条ニ候共百姓ニかせきを發て可申候、老人と子共ハくすぐひ米と行、
てゝくびその類ゝのゝ来年之支度可仕候、若百姓相背年

敬之下二字不明
若下於有脱字

貢油断仕候ニおゐてハ又ゝ食事　給上候ハヽ候て以後ハ曲事
申付候條依ゝ如件

慶安三年十月

宇喜助右衛門

森孝右衛門殿

古之通御書付被下候國別書寫壹候、此段迫下之百姓共壹
人ゝ不殘堅可申付候百姓之ごとく、
今存油断仕間敷候、若ゝ此旨相背候ハヽ、
御公儀ニ御届申上、
御成敗ニ可預候、
以上

寅十月十七日

森孝右衛門

慶安三年ゟ

一常ニきり志ゝん之改悛徒黨之者儀ニ付度々神伺付候旨
申觸候得共只今ニ而ハ彌堅相改可申事
一往来之脩俗共ニ筋ニ而ハ申渡之通一夜之宿ニも委相改若不
審存候ハヽ先々ニ而見逃ニ而ハ可申事若又新宮ゟ參申候ハヽ人
を相添注進可申事
一右一ヶ條ニ而ハ不盡儀ニ候ハヽ、猶別紙類
之もの、内、不審成者於有之ハ相改行方ハ相尋右之通
注進可申候、尚又商人體ニ而一夜之宿を借し候共
決之在屋年寄斷借ニ可申候其節ハ商ひを仕ル之内ニ
共追留申候ハヽ慥成る受人ニ商をいたさせ可申候事

辰ノ八月

辰ノ八月

一切死丹宗門之者今以心々ニ密ニ而ハ有之ニ難計之間隣合入相改之不審成ル
方ニ宿ニ而ハ仕事
一此人數五人組ニ而ハ在屋年寄無油斷改之可申事
一自今已後他所ゟ參ル者ニ而ハ於捕之ハ其所之方ニ在屋年寄手
前ニ而ニ宿ニ而ハ仕事
寛文五年巳八月

覺

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

一相　他国之旅人他領ゟ此方江送参候ニ受取為致養生可
申候送状申聞数候其者之国所領主支配之名其者之親
類名懸ケ聞届送参候者之方々何国之旅人煩候ニ付送参
候と判形之一札不可申候国所不知者ゟ受取候ゟ其
趣之判形一札不可申候
一送参候者可申聞ニ煩候旅人指送不仕筈候得共送
越候節聞受不申候此方ニて養生為致国所ゟ庄屋ニ可有
之由可申候国所不知者不申ゟ可有
可有之と可申聞候
右之通段々相心得候上ニ而病人此方江渡不申候ハゝ可帰と申候
ハゝ此方ゟ可申ハ右ニ申候通受取申聞候と申ニ無之候ハゝ
共渡ハゝ不申ハゝ申ニ及ハ帰候段ニ心次第之由ニ而右之品ニ手
形取可申候手形仕聞候と違ニ而申候ハゝ其通いたし送参候
者名懸ケ取右之趣記置可申候
　　巳六月廿二日

旅人煩之義最前ゟ申触候得共其度又和歌山ゟ被仰越候
間此書附大庄屋本陣置内ニ紅中ゟ相心得させ候へと被
仰付候ニ付何ゟ手前ニ扣置先々江通可被申候
　　六月十九日

　　庄川紅大庄屋
　　梅本金右衛門殿
有馬紅大庄屋　　鈴木典三兵衛

若又行暮一宿候節其者共博奕抔仕候ヶ兎角様子宜敷相見候ヶ早速村々候様ど申付候間右之通法進有之候ても致村送其咎たまり不罷在様ニ何とぞ可申閙候近き頃順礼給色々偽事ヲ申掠人家之金銀なと貪様ニ公儀へ相聞へ見分家方々江廻ぜ申候就又道筋村々江被仰付候趣ヶ有之候故如斯申候由可申閙右之段道筋何茂村へヶ申閙賢候間左ニ可申合事

一茶屋共へヶ申閙越ヲ村々百姓共へヶ能々庄屋肝煎申閙候様ど可申渡事

一道筋順礼一宿之節博奕抔致候ニ何とぞ様事ヶ候了

岡本　五兵衛殿
石志伝大庄屋
小林　久三郎殿
川内組大庄屋
入康　金兵衛殿
北山組大庄屋
山本共一兵衛殿

順礼抔人通候道筋在屋肝煎可申閙事

一順礼道筋之茶屋共へ可申閙候ヶ順礼抔人ヶ先々へ可申通等之者歟へ帰り候ろ又ハ其過ぐ候躰ニ見へ候ろ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

心を付是又宿送共ニ滞留不仕様可相心得事

未五月九日

道筋之茶屋共へ可申聞事

一順礼又ハ旅人ニ不寄船見覚候様仕先々ニ可差通筈之者跡へ立帰りニ而も其過ニ及ハす候躰ニ而相見へ申候ハ其様子ニ付ニ在屋賄売へ可申聞事

一旅人順礼等ニ茶屋共心得之様ニ可申聞ニ近キ頃後者順礼ニ多人を大ニ勧ニ順礼杯ニより金銀をも倉様ニ偽ニ御問候故見分家方ニ而も右之段相心得候様ニと被仰付候故何も心を付申候条

徒者恐誤字今依原之

法度之下之字不明

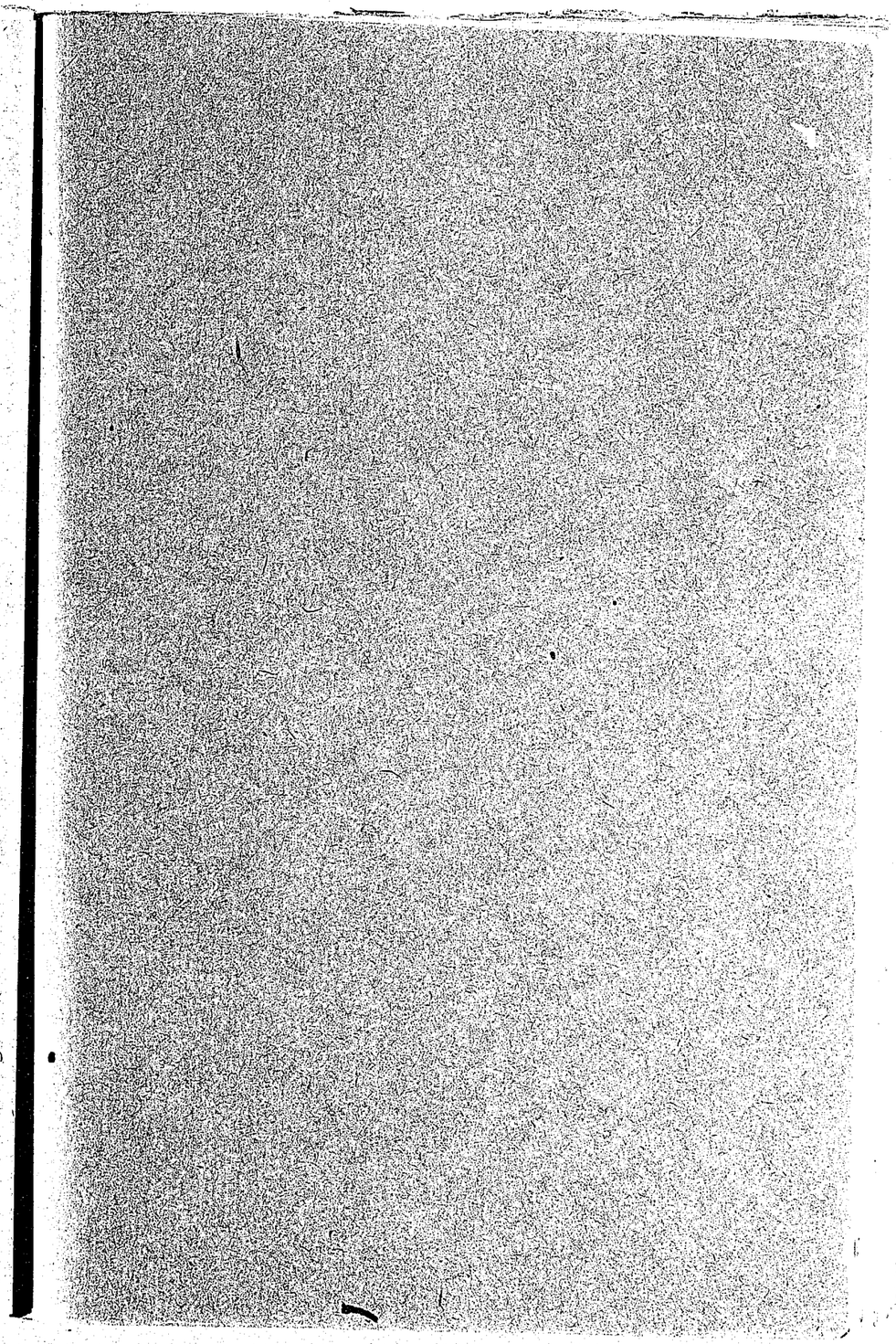
ニ当心得之申候当指用之事ニ無之候ニ先々ニ而も道筋留無之様ニ通ニ被申渡ニ可申聞事

一順礼旅人共ニ若日暮ニ及候一箇度ニ申候ニ前々ニ而も定ニ借ニ申事ニ可有之候左様之節其者共博奕致候ニ作法不宜候ニ其者共ニ一応可申ニ博奕之儀ニ何事ニ御制道と申ニ而ハ殊ニ御領分ニ法度相背候ニ各ニ他国衆ニ候ニ其通ニ候ニ而ハ共迷惑仕事ニ候間被相心得候様ニと可申聞若左様之刻ハひそかニ村之庄屋ニ申通ニ置可申候

未ノ五月九日

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

明治卅二年十月謄寫ス



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

天保十二年

御制札條目

五ヶ月

古座浦

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

明治四十二年九月上浣　古座町役場

大正元年八月四日発布大坂毎日新聞記事
大行天皇崩御事報告書ヲ提出ノ事ヲ令達
治朝ヨリ日本紀ニ五箇条ノ御誓文ハ宣ヲ改メテ五箇条ノ御誓文ト称スル
ノ旨勅

一正徳四年二月　薄ヲ加ヘテ　一宝永七年閏二月　仰ヲ称ス
一享保二年ヨリ　古ヲ存ス　一元文三年十月　若干増ス
一寛政　按察使ヲ　一文政元年　書ヲ

以上沿革ヲ存シ、参考ニ存ス、

時尋府出答

一御守札何枚有之哉ト御尋ニ付答
、八枚ニ而枚ニ御座候
但大瓶浦ニ守札八枚ヲ内三枚当廃
、不ト此ノ外墨入ノ分ハ御座候

條々

異国船ノ事

一薄ク小ク而船ヲ借ラズ異国船ノ
関ヘノ向今以後ハ決シテ其事ヲ細ニ
其船ヲ船底水ヲハヌケ荷物ヲ
ハ諸国薄ノ船底水ヲ出ス

水傳一会せいりかくめとりなして長時をりおよび又は其所化は代官所地
除へきりとそ秋近き於ハ中船一そ一又船はまそへハそ〳〵かゝるき事
ハなり阿方へまりとき船さ出けり於てそ其ものそ告知らせかゝ
らめとりなき事ハ船をけり於てそ其ものそ告知らせかゝ
如何へきりとそ出へき其船吾小をまさ急度はおこひやさるへ
き事

一浦〻の船所小をたとひめけ前書之事を申合せいとり事ハ船中ま
てかりとそ事ハ船をけり於てそ荷物取りまのなかゝ
らめとりな事前のたまをくおこなりて初〳〵中合せいる家科を出
るそれはかりひハ船傳りな時小中合せいな代物北一俵を一置へ
き事

附

其船仕事ハ船主船頭ハ相對手傳一なとそ其小をのまくらきハ

ちいてめけ前書之筆小まるこそんハ出不ハいけ事ハ又船傳ハ時船主船頭ハ中合せいな代物北一俵をかゝる一俵をかゝる〳〵き事

一諸国浦方ハ松そ前書ひいけ其所の者共そ急ハ告知らせいその方〳〵由を告知らせいその方〳〵ハ
ろ〳〵ハ其所の者共そ急ハ告知らせかゝめとりなして油断せめとりふ
べき者也

元徳四年二月　日

奉行

右ハ急ハ告知らせかゝめとりなして油断せめとりふべき者也

水地　法眼守
安食　常力

元徳四年三月　日

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

河辺半本

一 吉ノ字本ニ吉良ニ作ル按ニ作ル非ナリ

一 河辺ノ儀ハ御代々御譜代ノ家ニテ

菊亭出仕後ハ御近習ノ列ニ候処

四年以前ニ御勘気ヲ蒙リ

一 耕作ニ携ヒ候ニ付テハ

一 御先祖ノ如ク

一 左ノ所ニ絵ハ法橋ニ作ル

一 本物返ヘ申ス旨ニ付

一 御先祖ノ如ク

一 耕作ニ携ヒ候ニ付テハ

一 左ノ所ニ絵ハ法橋ニ作ル

一 本物返ヘ申ス旨ニ付

一 御先祖ノ如ク

一 耕作ニ携ヒ候ニ付テハ

一 左ノ所ニ絵ハ法橋ニ作ル

一 本物返ヘ申ス旨ニ付

撰吉

堅田ノ郷士

一 御先祖ノ如ク

一 耕作ニ携ヒ候ニ付テハ

一 左ノ所ニ絵ハ法橋ニ作ル

一 本物返ヘ申ス旨ニ付

水深弐十弐尋
三尋、七尋、十尋ニ
人せ、等ヲ云フ
ハ竹ヲ入ル名ヲ
五ヲ云ヒ弐ヲ云ヒ
ハ二ヲ竹ヲ

南部ニ於テ

公儀ヨリ御触書

條々

一 公儀ヨリ船ヲ不及ヤ諸廻船共ニ遭難ノ時ハ他船ヲ
救テ入精事

一 船破損ノ時ヲ取カヽヤ浦ニ着ク者ハ荷物船具ヲ始メ
物ノ内浮荷物ヲ引揚ル一汎荷物ハ揚ル一川丈ヲ浮荷物ニ揚ル
荷物引揚ル一ヲ揚ル者ニテ
一 沖小ヲ荷ヲ積ヌル時ハ着船ヲ陸ヨリ
直ニ
阿船
浦ニ着ク者ヲ
公儀ヨリ
日ニ
ト云ヒ
一 浦ヲ
一 御
一 自
一 浦
一 右

公儀ヨリ御触書ヲ以テ申渡ス事

水主 土佐守
安宅 弥刀

辰二月 日

船ハ不及ヤ諸廻船共ニ遭難ノ時ハ他船ヲ救
救テ入精事

一 船破損ノ時ヲ取カヽヤ浦ニ着ク者ハ荷物船具ヲ始メ
物ノ内浮荷物ヲ引揚ル一汎荷物ハ揚ル一川丈ヲ浮荷物ニ揚ル
荷物引揚ル一ヲ揚ル者ニテ
一 沖小ヲ荷ヲ積ヌル時ハ着船ヲ陸ヨリ
直ニ
阿船
浦ニ着ク者ヲ
公儀ヨリ御触書ヲ以テ申渡ス事

日ニ同ト云ヒ
一 浦ヲ
一 御
一 自
一 浦
一 右

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

科人を罷り和雲にあるかひて為出法者也

寛文十年閏二月十八日

公儀御吉礼に超墜て相守者也

水野 對馬守
安藤 帯刀

南部志摩守

前々より浦々六札相建 公儀船を不及申諸廻船共猥成儀之有
候 御仕置之通堅風之旨存ぬる船ハ
船ハいづれ成とも荷物を別さ世 御上ゟ御船ハ合不法ゟ儀無之
船ハ荷物に不拘御料ハ勿論仕置者ハ急度御仕置被仰付
御仕置ハ急度申付ハ其地上不相ゟ儀ハ御奉行ゟ後日ゟ聞ハ出
其ものハいかに及申ゟ者也て仍如件

一 沿岸米船近年破船多ハ付今般諸国相改別之大切ニ仕
候 浦船之儀ハ不入船ハ大坂船ハ大坂奉行所外聞ハ船ハ
皆ゟ船ハ急度ゟ研極印を打船ハ焼水主人数等船ハ極印ゟ
令建潜ハ焼ゟ儀ハ船ハ焼水主人数等船ハ極印ゟ
右之通ニ候 若此之内令無改ハ破船ハ印形ハ無之ハ書物
不ハ当座ハ料ハ仕候共船頭ハ急度御仕置ハ
可奉行ハ船ハ漕ハ入ハ船ハ
数要用ハ船ハ船ハ
物ハ船ハ水主人数ハ
ハ船ハ水主人数ハ
上ハ 御奉行ハ
一 破船ハ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

仕方於あつては相除より不限罪有無は早き下行う事
右に依り急度可申付者也
子細ありて母於ては又は所払可申付者也
辰八月

右之御触被仰
出候間 御出之百姓ども可堅相守者也
文化二年十一月

定

一 きり吉大小宗門之儀、年季之儀禁之旨自然不埒之方へ出入
ねうひとして

そでまん 廿許人 銀五百枚

一 はま 廿許人 銀三百文
一 きかへ里者 廿許人 同断
一 旧家宗門 廿許人 銀百枚

右之通之ものとひ旧家宗門の内之ものといふを訴人ヨ出候ハ
ゝ銀五百枚可遣候、若又訴人なくして、かねてより
の名を呑三人組之一類者にて訴人ヨ出候ハゝ銀三百枚
可遣候、若又訴人なくして、かねてより
右之通之ものとひ旧家宗門の内之ものといふを訴人ヨ出候ハ
ゝ銀五百枚可遣候、若又訴人なくして、かねてより
の名を呑三人組之一類者にて訴人ヨ出候ハゝ銀三百枚
可遣候、若又訴人なくして、かねてより

文政二年五月 奉行

右之御触 御出之趣可堅相守者也
文政二年六月

定

何事によらず一かゝり之百姓大勢ヨ合せ訴訟いたし

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04032

おくと、うって出(後光)てねがひ事くハつゝおこゝ(後部)許(後筆)
ハヤなが(今)せ村ろくそ(辺退)のまゝなてろさんとヤ云ふ(後筆)御法度(後筆)の条
数の御こと(後筆)ゝ(有)ゝ(有)ゝ(有

一右之口状差添訴状ヲ以テ訴出ヘキ事

一被告ヨリ差押ノ有無并ニ被人ヲ以テ預リ
置ノ品々ハ不及申上候得共、若押隠シ
置候ハヽ其品ニ寄、吟味之上急度可申付
候間、其旨相心得可申事

一諸向ヨリ八百両以下ノ貸銀ニ付テハ、
訴状ニ及ハス口状ヲ以テ可申出候。
尤証拠ノ書物ハ勿論、相対ノ上、内済ニ
致シ候ハヽ、其趣ヲ以テ可申出候。
若証拠ノ書物ニ不足ニ付、前々手形ヲ
取ル等ノ儀ハ不苦候。
但シ訴状ニ及ヒ候ハヽ、手形ヲ取ル
ヨリ以前ノ日付ニ致シ可申事。

右之外先ヨリ被届筋ニ付テハ、
何ニヨラス不正ノ取計有之間敷事。

除ク

一妻離縁ヨリ被訴事（訴訟二字朱ニテ消ス）

その方一由、お関ハ何某妻ニ候処、
以後密通ニ及ヒ候ニ付、吟味之上急度仕
置申付ル事、

一被訴ハ其ものを呼出シの内ニテ申渡ス
ニ及ハス、表ニ於テ申渡ス事

一本人ニ代リ外ノ者又ハ寺社ヨリ呼出シ
ニ及ハヽ其ものヲ呼出シ申渡ス事ニ候
ハヽ本人ヲ呼出シ申渡ス事ニ及ハス

右之通被
仰付候ニ付
文化二年丑十二月

水野 飛騨守
菅 順也

住ヲ命ジテ入牢セシメ其ノ主人ヲシテ其ノ旨ヲ申告ヲ為サシムル事

附

一今ヨリ以後仕官ノ者ノ宅ニ一時ノ客ト雖モ其ノ主人ヨリ申告ヲ為サヽル者ハ其ノ主人ヲ処スル事

一仕官ノ者ノ宅ニ一時ノ客ト雖モ其ノ主人ヨリ申告ヲ為サヽル者ハ隣ノ者急ニ其ノ旨申告ヲ為サヽル者ハ重ク科スル事

也

天保二年十一月。

奉行

右ノ趣被仰渡候

公儀ヨリ御定ノ右ノ通リ堅ク可守者也

天保二年十二月。

三浦 右近将監

安倍 豊後守

一国ヲ廻船於海上異国船ニ出合ハヾ其ノ船ヲ打払フヘキ事

一今般浦賀ニ於テ異国船ニ対シ発砲ノ儀第一ニ相掛ケ候ヲ以テ御公儀ヨリ御厳重ニ御定ノ趣モ有之候ニ付テハ其ノ国ノ船ヲ以テ通商ヲ願ヒ候トモ決シテ差許サヽル事

一異国船ニ乗組ノ者ニ限リ上陸ヲ許シ候トモ決シテ厳科ニ処スル事

也

天保二年癸卯ノ

十二月

右ハ今般異国船ニ対シ御定ノ趣ヲ以テ

天保十二年丑六月

紅毛年番阿蘭陀

大通詞

仲六郎

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

享保十壹月八日年

立下ル　仰渡書控写

壹通

享保十三年申二月廿日ニ写之

明治四十二年九月上澣　吉座叶後援　筆士　伴　鷲谷

今般倫約ニ依テ　仰告諸士家族ヲ著ノ寄遠中拙ニ百姓共ヲ質外不仕候、依テハ御面ニテ御ニ依テ之ニ付テハ又一ト通リ御改後人ノ面ヲ実迄共ニ百姓ニ家元ヲ申ス百姓指ニ衣装著ノ仕候ヲ改方ヲ後人附条ヲ以テ後人ヲ連条人ヲ支配ヲ中渡ヲ吟味ニテヲ付事

右者　仕方向ニ付十二月十八日　吉座御事ヲ中渡

一　仕方諸士倫約ニ依テ　仰出ノ条ヲ中ニ依テハ又一ト通リ御改後人ノ面ヲ実迄共ニ百姓ニ家元ヲ申ス百姓指ニ衣装著ノ仕候ヲ改方ヲ後人附条ヲ以テ後人ヲ連条人ヲ支配ヲ中渡ヲ吟味ニテヲ付事

一　等附筆写ニ付ニ出ニ近ク祝儀ノ節ハ自ラ右ニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

祝儀ハ当山ノ定ヘシ

一 加賀ノ位牌持参ノ儀ハ又用ニ応ジ

吉書ハ十二月十日ヨリ

一 檀主并大庄屋及ビ妻子衣装

紬ヲ用ヒ、紋ハ五ツノ外ハ不苦

但妻娘ハ帽子ヲ用ヒ

一 庄屋ヨリ平百姓ニ

手綱ハ布ノ外不苦、帯ハ常体ノ紬ヲ不苦

但妻娘ハ帽子ヲ用ヒ紬不苦

一 檀主并大庄屋ノ妻ヨリ百姓ノ妻ニ至ルマデノ衣裳帯等一切不苦、又越ノ方ヨリ仕入ル縮緬ハ不苦、

吉書ハ十二月廿日ヨリ祝儀ハ為替ヲ以テ

女壱人宿ニ而十二月廿七日ニ紙帳ニ而
ヤ候

安永四年ニ
完

一壱ヶ百姓ニ等ニ米穂ニ噌不ヤ河岸ニ
居商稼を相止ニ諸世一面を心掛ニ
付候時ニ近年ニ
姓ニ出来ニ様子ニ
百ニ付ニ弁上宮

以上

一家作ニ候ニ而ニ面ニ
ニ而ニ

一地主ニ百姓ニ
有ニ候ニ
ニ三反ニ
者ニ村ニ
一寄ニ
止ニ
一寄ニ
ニ
一地主ニ百姓ニ
ニ
一寄ニ
ニ
一寄ニ
ニ
一寄

百姓も木地挽きおよび又八名持一棹ずつ仕来り候ところ、此度小百姓も木地挽き候ハヽ、右両人の者共難渋に及候間、小百姓も木地挽き候儀、是迄の通り相成候様仕度奉存候事

一、婚礼の節、親類縁者より祝儀として品物贈り候節、従来は一荷三種ずつ外差出し候仕来りに候処、此度一荷五種ずつ差出し候仕来りに仕度奉存候事

一、葬礼の節、親類縁者より香奠として品物贈り候節、従来は一荷三種ずつ外差出し候仕来りに候処、此度一荷五種ずつ差出し候仕来りに仕度奉存候事

一、端午の節句、男子これある家へ幟を立て候儀、是迄は本百姓のみ立て来り候処、此度小百姓も立て来り候様仕度奉存候事

一、往来筋村方人家体有之家居おゐて外耕作一向りも無之小間物商売致候者共外百姓に不差構、村方営ミ商人共へ於ても是迄の通り商売差支無之様仕度奉存候事

一、懸乗仕の者、小遣ひ仕り候者自宅を夜人を回し候節は、村方より会人を出し候仕来りに候処、此度小遣ひ仕り候者自宅を夜人を回し候節も、村方より会人を出し候仕来りに仕度奉存候事

一、辻お弁ひ致し候節、一荷両宿より弐人ずつ出し候仕来りに候処、此度一荷両宿より弐人ずつ出し候仕来りに仕度奉存候事

一、小入用村割致し候節、是迄は百石に付弐人ずつ割合に候処、此度百石に付壱人ずつ割合に仕度奉存候事

一、夜人勝手に相休み候節、料理茶代等一切差受け申間敷候事

右仕合奉願上候、以上

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032

寛政八年

享保年中ニ津々ヶ傳
村ニ神　御渡書板壱箇ニ

寄ヶ前ニ石垣ヲ築キ船ヲ以テ年貢ヲ納ル所在所ニ五人組ヲ以テ為替ヲ組ム所ヲ

享保八年卯二月
村ヨリ申ス二月十五日ニ外記差出ス申ノ口添書ヲ有之候申ノ口添

在中人方と保ち毎別帳に面付二年宗宮ニ
守ニ中各入会ニて中付事
　　辰八月十六日

和歌山県立串本古座高等学校

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04032